明治三十七年五月七日第三種郵便物認可
大正七年一月二十八日印刷納本
大正七年二月一日發行（毎月一回一日發行）

二月號

女子青年界



要目



肌さむき冬の朝、
溫雅な香の裡に
皆様の御氣分を
慰める

齒科醫推奬の
ライオン齒磨

粉製はお徳用、煉製は上品、水製は輕便でございます。



東京本所區外手町
ライオン齒磨本舗
小林富次郎
支店 大阪

大正七年二月號　女子青年界目次　第十五卷第二號

女子青年界目次

日本基督教女子青年會
本部委員及幹事

委員長 井深花子　書記 三谷民子
副委員長 岡見恵子　會計 井上友子

委員

辻松子　ミセスフェールブス
長谷川喜多子　上代淑子
鈴木歌子　ミス・トリストラム
山田千代子　長尾ナミ子
ミセス・クック　ミス・ウエスト
松田道子　星野愛子
廣岡淺子　城戸順子
ミス・ゲーンス　志立タキ子
津田梅子　ミス・デントン
ミセス・クレメント　松岡鎭江
ミセス・フィッシャー　野村美智子
藤田貞子　井上レッ子
佐伯小糸子　ミス・ソール
總幹事 河井道子　幹事兼會計 ミス・ガンター
同 ミス・マシウ

館付二

生徒募集（修業年限三個年半）

新學期開始　來る四月九日——入學の好機

入學資格　滿十八歳以上の基督者、高女校卒業以上の學力、傳道志望、教役者の推薦者

規則書　二錢券封送あらば直ちに發送、課程其他詳載。

入學手續　規則書に同封せる入學願用紙に記入の上、校長宛に送附あるべし。

試驗　右掲の學歴無き向には入學試驗、基督教主義の學校其他にて聖書の素養多き向には上級編入試驗、孰れも志望によりて施行す。

横濱山手二百九番

共立女子神學校

來る四月本科及實科第一學年入學者若干名
本科第四學年以上各學年及實科第二學年補缺入學者若干名を募集す

希望のものは本校につき規則書を取寄せ（郵税貳錢封入）三月末日迄に申込むべし

●●●●●教養の特色（文部省五ヶ年程度高等女學校に準じ高等普通教育を受け殊に基督教主義により高尚なる女子の品性陶冶をなすを特色とす）

●●特權（文部省指定認定出願中不日認可の上は本科卒業生は高等の學校に入學するを得）

●●發展（市外形勝の地に目下最新式校舍建築中、來年三月移轉の筈）

大正七年一月廿二日

福岡市天神町四十四番地

私立福岡女學校

本校は明治四十三年四月文部省より高等女學校同等以上の指定を受け専門學校への無試驗入學資格を有す

本科は修業年限五ヶ年にして學科課程は五ヶ年程度の高等女學校に同じく英語音樂は特色あり

英語専修生には一週十三時間別科生は随意選擇したる學科を學習するを得

教師は英人三名、日本人十三名

本校は高燥開濶の土地三千餘坪を肩書の處に得て校舍を新築し十一月一日移轉す

寄宿舍には八十名以上を收容し數名の女教師起臥を同じく懇切に監督す

規則書は郵券二錢を添へ申込まば送附す

文部大臣指定

大阪市外鶴橋町（天王寺勝山道）

私立プール女學校

挿付四

御用の節は「女子青年界」の廣告で見たと御申添下さい

和　本

基督教とは何ぞや ■石坂龜治著 .05–.02
基督の事實 ■シムプソン著 .40–.04
讃美歌歴史 ■海老澤亮著 1.00–.08
ナザレの人 ■柏井園譯 1.00–.08
教師及教授法 ■バークレー著 .20–.04
宗教々育指針 ■ファウスト博士著 .45–.08
人格不能論 ■田中達著 .30–.06
日々の力 ■根本正著 .25–1.00–.08
ヘレンケラー孃吾身の物語 .5 –.08
耶蘇の人格 ■フォスディック著 .60–.06
靈交錄 ■フォスディック著 .80–.06
朱と紫 ■富永德磨著 .25–.04
神の我 ■エインズレー著 .15–.02
はなしの園 ■古谷新太郎著 .25–.04
苦痛の秘義 ■ブルークス著 .75–.08
信仰の勸め ■武本喜代藏著 .10–.02
ベテレヘムの厩 ■宮川了山著 .25–.04
人を導く人 ■ゴルドン著 .90–.08

文　具

Bible and Hymns
(和洋聖書及讃美歌)
Sunday school Supplies
(和洋日曜學校教材一式)
Stationaries
Writig Pads (書翰紙)
Envelopes (封 筒)
Note Books (手 帳)
Fountain Pens (萬年筆)
Paper Fastener (紙綴器)
Embossers (文字浮出器)

洋　書

Alexander's Hymns No. 3. .... .58–.06
Alexander's Gospel Songs .... .58–.06
Christ in Everyday Life...Ed. 2. Bosworth 1.35–.08
Christian Standards in Life...J. L. Murray & F. M. Harris 1.35–.08
English Grammar Simplified...J. C. Fernald 1.65–.08
Good Health...F. G. Jewett .... .92–.08
Illustrative Teachings of Jesus...Geo. H. Young 2.20–.08
Life and Teachings of Jesus...Ch. F. Kent 2.90–.08
Manhood of the Master...H. E. Fosdick 1.35–.08
Meaning of Prayer...H. E. Fosdick 1.35–.08
Milton, The Poetical Works of John .... .85–.08
Mrs. Browing's Complete Poetical Works .... .85–.06
Music and Other Poems...H. Van Dyke 2.20–.08
New Educational Music Course. Intermediate Song Reader...J. M. McLaughlin .... .74–.06
New Testament of Our Lord & Saviour Jesus Christ with Notes .... .88–.06
Outlines of Composition & Rhetric 2.30–.08
Patience of God...E. A. Burroughs .45–.06
Paul in Everyday Life...J. D. Adam 1.35–.08
Pupil and the Teacher...L. A. Weigle 1.10–.08
Schoolyard Athletics...J. E. Sullivan .... .30–.04
Seaside and Wayside, No. 1...J. M. Wright .... .6 –.09
Self-Reliance...D. C. Fisher 2.20–.08
Student Standards of Action...H. S. Elliott & E. Cutler 1.35–.08
Study of Child...Nature from the Kindergarten Standpoint.......... E. Harrison 2.30–.08
Care and Feeding of Children...J. L. Morse 1.10–.08
Care of the Sick Room...E. G. Cutler 1.10–.08
Care of the Skin...Chas. J. White 1.10–.08
Care of the Teeth...Chas. A. Brackett 1.10–.08

東京京橋區銀座四ノ一　教文館 (KYO-BUN-KWAN)　振替一一三五七　電話京橋二五二

女子青年界　第十五巻　二月號　大正七年二月一日發行

會説

伐出したる材木

河井道子

越年迎年を田舍に閑居せる老母と共にし、歸京して見ると家には諸所よりの年賀狀堆く、斯く親切に友人等に記憶さるゝ喜び、一々閲讀しつゝあるうちに早天聯合祈禱會の通知書目にとまり、最後の一日なりと出席の出來るのが何やら嬉しい心地が致しました。當日には幸にして六時半に神田三崎會館にての早天祈禱會に間に合ひ、新年に新たなる勇氣を與へられ、尚また會終つて敎役者會が階下にあるとき烏滸しくも許可を乞ひ列席致しました。寒氣身にしむ早天に皆をねぎらふ爲め、熱き紅茶の朝飯に供へられしは何より嬉く思はれました。食事の後金森通倫先生が前日よりの引續きとして傳道の精神を如何にも熱心に簡明に痛切に鼓吹されしお言葉は、一一肺腑に貫徹した思であります。其話の中に左の如き一節がありました。

「吾々傳道者は山から材木を伐り出す樣な者で、杉

松、樫所嫌はず何物でも手に任せて之を伐集めるが役であります。昨年中十萬以上の人々神の福音を述べ傳へたが其中三萬(?)の人の決心者、或は求道者の名を得たのである。これが即ち山林に入つて材木を集める事であつて、扨是材木を牧師方、教會員達にお渡しし以て愈々立派なる建築をして貰ふのである、牧師は之を削り斧を入れ或者は床柱、天井板、棟木、大黒柱其れ〳〵の用に用ひられ斯くして建築が出來るのである。折角伐り出した材木でもこれを其儘にして置けば、雨風に晒されて遂に腐蝕つて仕舞ふのは自然である、其處で折角傳道をし名前などを集めても若し牧師又教會の者が、その儘にしておけば消えて仕舞ふ、或は以前よりかも却て惡い結果になる事が往々ある、それで此材木を充分に役立たせる樣につとめねばならない云々」これを聽いて居る最中に何故か急に心に浮んだのは、支那西湖を見物に行つた時の事でありました。瀬上領事の御案内で一行五人は湖上の中央にある行宮即ち今の公園地を見物して、純粹の支那風建築物や庭園で何となく心が昔に歸つた樣でありました。不圖湖水に面した路傍に夥しく立派な材木が堆積され、煉瓦や石も運ばれてあるのに氣が附き、而し永らく置捨てになつてある如き跡が見えますので、領事に其理由を尋ねましたら、或實業家がその土地を買ひ占めて宮殿に等しき宏壯なる建築を計畫せしが、法律上不正當の事あつて終に中止となりしものと聞き、さらば此材料の如何に成り行くべきやを尋ねしに、あたりの者は「腐らせて仕舞ふのさ」と返事しました。お互に今日の如く建築材の貴重なる際、斯る處に斯の如き無駄を生ぜしは罪恐しき思ひ禁じ難く存じます。

別に物珍らしい事でもありませんが、金森先生のお言葉が斯る聯想を引起し、引いて又吾等の知人友人の間に結構な材料が多くあり、然もそれが善用されずに無用の長物視されるか、或は蟲喰ひ苔むして無益に終りつゝあるのを思はずには居られません。折角教育され神を教へられ、順境に置かれし者が何

の役にも立たず、却て他を害しつゝあるものが中に多いではありませんか。よく人の言葉に何某さんは教育を受たがあの通りだから、婦人に金をかけ教育などさせんより嫁入仕度の貯金をさせるとか、誰は信者と云ふが名ばかりであの樣は實に驚くべきものである、其故基督教を奉ずるは宜しくないなど、極まつた淺薄な批評ではありますが、それが又凡人の多い世俗には中々効能があります、それが爲有意の後進者が狹隘な境遇より脫し得ない事も往々目擊する所であります。其で吾々は受けた物は必ず之を使用するが自然の道であると申し度のであります、山から伐り出した材木は放棄して置けば腐蝕らずには居らぬ如く、精神界に於ては尙更開け放しや、伐り放しでは其が無駄にならずにはおけません。神ありと知つたら之を信仰し吾が所有となし日常生活に於て神と吾々との關係を厚くする樣にして、日一日と神の形が吾がうちに成ると云ふ樣にしなければ、如何なる傳道說教を聞きて尤であると思惟した位では何の役にも立ちません、又人間は弱い者であると云ふ事、罪多き者であると悟つたとて其儘であれば失望に終るか、自暴自棄になるか「仕方がない主義」に妥協するかで、折角の思付きも腐つて仕舞ひませう。其處で如何しても罪より脫し、己に克ち聖化されん事を乞ひ、これが爲基督の教を毎日新たに經驗する迄努力しなければ、人間の高潔などと云ふ美德は向上るものではありません。慈善等尙更の事であります。善を施すは善い事であるとは生れながらにして先天的に各自の心に植付けられてありますが、而し已の慾を利し、否一步進んで己れを忘れて他人に善を施すと云ふ樣に、結局惡人の爲にさへ一番大切な己が身を捨て給ひし基督に倣ふとする事は容易ではありません。聖書の譬のうちに愚なる金持の話があります。即ち豐年で作物を皆自分の庫に納めかねて、終に大きな庫を建て增し、其處に凡ての貨物を入れることにして大滿足で多年を過す程の多くの貨物をもちたれば安心して飮食せよと云ふた話が

あります。所謂財寶の持腐れとは是を申のでありましよう、是を活用せず仕舞つてばかり置くは蟲の付く早道であり、自分のためのみに使用するは己を墮落させる早業である譯で、如斯き愚人が今日實に澤山であります。又今一つの譬話に主人が三人の僕に各資本を渡して商賣をする樣にと命じました、二人は得た其資本を活用らかせて其れを倍に致しましたが、今一人の僕は資本を用ゐずして其の儘に放つて置きましたが爲、主人より大なる譴責を蒙つたのであります。是等を精神的によく考へて見ると吾々の經驗によく當塡る事が御座います、それで基督が生命さへも自分のものとして役に立せず、大事がる者は却て之を失ひ、神のため世の爲にその生命を失ふ者はこれを得ると仰せられたことも、唯に宗教界に止まらず、一般の經驗に符合して居る金言であります。

私共は神の宮殿或は神の國を建つ可き材料であります、何の役に立つか一向に存じません、併しながら皆其れ相當の責任が與へられ必ず役に立つ可き者となつて居ります。或人は御國の柱石となり、或者は土臺の樣な大切な材料であると同時に、又或者は一本の釘、眼に見えぬ床板、漆喰の樣な極小さなお役でありませうが、どうしても無用の者は御座いますまい、神と云ふ大きな建築師の手に依つて吾々が充分に使はれ、大なる建築のうちに含まれたいものでありますから、何處迄も得たる境遇、與へられたる責任、惠まれたる智識が削られつ磨かれつして、銹る事なく蝕み食ふ事なく、黴の生ゆる事なき美しき神の宮殿の御用を果し度いものでございます。

講演

霊界の森林

ジヤワード博士講演

辻松子譯

「ジヤワード博士は紐育に於ける一流の牧師で氏の教會の傳道の精神に於て聞えて居ります。
先生はスカツトランドの方でありますので、今回の戰爭の爲本國を偲ぶの念禁ず能はず、紐育で非常の俸給で御留任を願ひましたにも拘らず本國に歸られ戰爭の爲、專心專意純然たる福音を述べ傳ふる事に盡力されて居ります。」

「主ばんごんのエホバは雄々しくたけびてその枝を斷たまはん丈高きものは伐おとされ聳えたるものはひくゝせらるべし。また鐵をもて茂りあふ林をきり給はん、レバノンは能力あるものに倒さるべし。」

此夏私はロッキー山を越えて旅行をしたが、其途次私に最も強い印象を與へたものがあつた。それは山中到る處に森林は雷火に打たれ、野火に燒かれ、凄じい有樣となつて荒れ果てゝ居る事であつた。其處で私は考へた。此限り知られぬ大森林を創り給ふた神は又之を破壞し荒廢せしめ給ふのであるか。天地宇宙の恩惠者たる萬軍のエホバは、又萬物を破壞し盡す一大强敵となり給ふのであらふかと。

實に神は吾々の最も親しみ懷しむ可き友であるが又或時は畏る可き敵である。吾々は神の聖威に依つて生され又斃される。實に神は萬物を灼き盡し給ふ火であり、一面に於ては恩愛の力、構成の力であると同時に一面に於ては又大なる破壞の力である。故に吾等は神としての神に接し又火としての神に接す
凡そ世の中には火程暖く又懷しむ可き物は無い、

病める時吾等の室の寒氣を取り去り、又吾々の日常の食を與へて不足なからしめるのは是れ火の力である。然し苟くも之を弄び、等閑に附して顧みない時には彼の溫熱は忽ちにして猛火となり、吾等の家を灰燼に歸せしめる。

電氣に於ても又然り。其活用の廣き電氣に及ぶものなく、人間社會にとつて便利多き事又是に勝るものはないが、一度是が使用の法則を破れば、電光は忽ちにして萬物を燒き盡さずには止まない。

斯の如く吾人を援助し包擁する恩惠の力も一度變じては、憤怒となり强敵となつて吾等を打ち懲らしめる神の力亦斯の如し。神は創造的であると共に又破壞的である事を認めなければならない。

此を吾人の精神界に徵するに各個人の精神中に神賦の能力の巍然として樹立する事は、恰も大森林に鬱蒼たる老樹の如くで、或物は杉の如く高く、或物は松の如く美しく、又或物は棕梠の如く優しい。即ち愛、信仰、良心、希望及義務、奉仕同情の念純なる喜悅の如き、悉く是れ靈界の林に於ける大樹である。其集る處美に於て、光に於て、實に萬國の園とも稱す可きであらふ。然るに是等天與の能力も吾々にして之を忽にし、精神に腐敗を生じ、利己に走り虛僞に陷る時は實に恐る可き結果を生ずる。

神は偉大なる力を以て是等巨木の枝を伐り、幹を倒し給ふが故に、鬱蒼たりし大森林も遂には其影を收めるに至る。此眞理實に何等疑を挾むの餘地は無い。沙翁の劇に於て又ブラウニングの詩に於て、又ホーソンの「緋文字」に於て敎ゆる所は凡て是である

更に之を社會に於ける精神的團體に見ても、其道程に於て異る所は無い。人類相互の美はしき同情を以て相集る社會は凡て綠樹の繁る森林である。音樂美術、文學、商業の社會に於て、又夫婦、家族の生活に於て、或は社會的、宗教的奉仕の事業に於て皆然り。而も是等の者にして一度神意に逆ひ其精神美を害ふ時は、其團體は忽ちにして動搖を生じ、腐敗、廢頽に終るのみである。

之を歷史に見ても亦明である。イスラエルに於て其民族が實を失ひ華美に傾いた結果の恐る可き事はアモスの書に述べられてある。又中世紀に於て英國僧侶の生活でも、又下つては十八世紀の英國社會生活でも、其精神界の疲弊を生ずるや否や忽にして大樹は倒れ森林は燒かれた。

更に現世紀に於ける吾人の社會を見るに、神の法に反けるが爲に生命の樹は今や倒れんとしつゝある過去數十年間に於て世界は何を爲しつゝあつたか。利得に馳り權勢を追ひ、快樂を貪り、奢侈を事とし道德を等閑にした。家庭生活に於ても、信仰生活に於ても、共に從來の純美嚴正を缺いた。然るが爲に生命の樹は吾等の周圍に倒れんとし、火は吾等を燒かんとして居る。神の法を破る時は即ち破滅の時である。「罪の酬は死なり。」

・・・・・・

事、實に斯の如くならば、樹は倒れたるを以て終りとするか。否、今夏ロッキー山中で目擊したのは決して倒壞した立樹のみではなかつた。散り落ちた枝葉の間からは小さき若草が芽を萌し或は花を開いて居た。即ち荒野は再び新生命を得つゝあつたのである。吾人が此處に云はんとする處も亦是に同じ、エッサイの株より一つの芽で、その根より一つの枝はえて實をむすばん。(以賽亞書十一章一節)

即ち荒野に新生命を見るが如く、頹れたる人類社會には基督を見るのである。基督は如何なる人をも贖ひ給ふことが出來る。マグダラのマリアでも、聖アウガスティンでも凡て新らしき命に入れる人である。ベグビーは是等を稱して再生の人と呼んでゐる。國家社會も亦此の如く贖はれるのである。頹れたる羅馬帝國でも又中世紀の英國でも皆新しき命を得て再生してゐる。果して然らば現代も亦此怖る可き社會狀態を脫して一新生命に入らむとしてゐるのではあるまいか。抑如何なる形に於て此新なる生命が吾々に來り臨まむとしてゐるかは、今にして計る事は出來ない。然し全世界の爲に一大善の來らむ

としてゐる事は疑ふ可らざる事である。或はルーテルの如くウエズレーの如き偉人としてか、或は勞働の社會に於ける一新源泉としとか、又は學界に於ける崇高なる眞理の憧憬としてか此新生命は吾人に現はれ來るのであらふ。

世界は將に廢頽に歸せんとするの時新しき敎は來る。而して全世界は吾基督の主權の下に集められる萬物は再び新たになるのであらふ。

あまつみつかひよ　エスのみ君の
ちからをあふぎて　主とあがめよ。

いのちをさゝげし　あかしびとよ
ダビデの御裔を　主とあがめよ。
ヤコブのやからよ　身をそなへて
牲とせしエスを　主とあがめよ。
世のつみびとらよ　エスのあいと
なやみとをおもひ　主とあがめよ。
よろづの族よ　御前にふし
みいつかしこみ　主とあがめよ。
とこしへのうたに　こゑをあはせ
ちよろづのもの　主とあがめよ。

高等教育の必要に就て

早大教授 工學博士　山本忠興

或老練な女流教育家の辭に靑年女子の教育法は男子の教師には到底理解されぬ者であると云ふ事が含まれて居つたので、爾來十年餘も過ぎた今日でも此辭を思ひ出します。さればとて女子教育の問題は男

子として沈默し得ない事であると考へますので、物笑の種となるかも知れませぬが敢言無頓着な人の横着な僻として述べさして戴きたい。

世間には女の高等教育は不必要であるとの意見の人もあるとか聞きますが、是は最早歯牙にかける必要のない議論であると考へます。又女子教育は所謂良妻賢母主義で實用的であればよいと云ふ聲は相當に高い樣で、此の裡には眞理を含んで居りますが然し又大なる僻見が交つて居ると信じます。今日吾國教育界では所謂學制問題が解決(法文的)を見んとして居りますが、其裡には女子高等教育に關して何事も言及して無い樣であるが、男子と同じ取扱ひをする積で省ける者か、それ共女子高等教育は不必要として度外視した者でありますのか、但しは今日當面の問題は男子に限り女子に關しては後に討究する積でありますのか、孰れが事實でありましようか、又此邊の事を心配して居る人は日本にどれ程ありましようか。

廿世紀は小供の世の中であると云つた教育家がありますが、確かに小供の教育は最も注意を受けて居る世の中であります。其小供が成年に達したとすれば男女の區別を設けて女は教育界から忘れられて終るとすれば隨分不合理な事であります。

女子の高等教育は第一女子自身の爲に必要であり又權利であり、此の點に於て男子と差別的待遇を受けるべきでないと考へます。勿論男子と同じ全ての職業的教育を要求するのではない事は云ふまでもない事であります。私は自分の小供は男女の區別なく其能力の發達に從ひ、出來る丈訓育して其後の獨立生活は相當の忠言をなしたる上は、本人の撰擇に任するのが至當と考へて居ります。

第二に女子の高等教育は社會國家人類の爲に重要であり當然であると考へます。抑も今日の世界は男子が支配して居るのか女子が支配して居るのか疑問であると存じます。一見すると活動して居る社會の表面には男子の能が現れて居りますが。其奥には女

子の能が潜んで居り又人間を生で是を直接養育する者は女子であるが、所謂三歳の小供の魂は百歳迄も其人物を支配する者であるとせば、世界の表面に立つて活動する人物に對して女子の感化の大なる事を思はざるを得ません。又世の中の復雜するに從び此責任は益々女子の肩に懸る譯であります。女子の智識が進めば衣食住の改良進歩が實行され、人生の能率は增進され、現今の男子の仕事の一部は女子により果され、男子は他の方面に活動の範圍を廣め得る事は明で、現に女子教育の進歩した國柄では此事を實現して居ります。女子教育を輕視し又否定しつつある人は、實は世界の進歩に大きな障害物を加へ自ら重荷を負ふて居ると見るのが至當であります。

第三に是は又神に對しての責任であると考へます。小供は神から托された者であるとは多くの基督教徒の心に感得される事であり、又其心持で養育する事は親たる者の道を全ふする所以であります。神の前に役目こそ異れど男女の故を以て恩惠を受けるに區別はない筈で、或人の談に日本で婦人に傳道し婦人が信仰を得ると、所謂梅櫻桃李一時に花を開く如く心の門の開けると同時に、智慧の門が開け其の抑へられた靈魂は自由を得て、長足の進歩を遂ぐると云ふ事を聞いた事がありますが、實に首肯すべき事であり、又其原因の何處にあるかは容易に讀破さるゝ事であります。

かくの如く女子の高等教育の重要なると、又今日我國に於て閑却されて居る事を殘念に考へて參りましたが、而し教育と申しても私は單に智育をさしたのでなく、又夫れ丈であるとせば一概に贊同が出來ません。又事實女子教育に反對的態度を以て居る人の内で眞面目の人は、此の偏りたる教育に對しての反感が主なる動機をなして居ると考へるのが至當で有ると存じます。是は女子のみでなく男子の教育に於ても同樣で、現今の教育の缺陷は德育の足らない點であり、是が爲に眼に見へる物質上の事や利害に敏く低い淺い點で爭ふ樣な事が多く、此世は神が支

配して居り、道徳の能が眞に强いと云ふ信念の廢れて居る事は實に恐しき事で、此際深い道念を以て行動し信仰の能に依り美き品性と習慣と主義ある、男女を育る樣な教育が必要であります、若しかゝる意味の教育が行はるるとせば、女子の高等教育は最早議論の問題でなく、又さる婦人に依りて養育さるる、第二の國民は如何に進歩するで有るか大なる希望を寄する事が出來ます。

折柄基督教女子大學の設立の計畫の熟した事を聞き、殊に尊敬する安井哲子女史が是を主管し、新渡戸稲造氏が顧問として助けらるる事を聞き、實に吾徒の要求する教育機關が成立するで有らうと豫期して居つた際に、本誌の前月號に其教育方針を兩氏より公表されたるを見るに、人格教育を重んじ應用力を養成されんとする主旨等が列記されて有ります。實に教育の眞諦を穿てる者と謂つべく、多大の希望を抱き且つ是を實現する事を禱る次第であります。

現今教育殊に女子教育の過渡的時代に際して、基督教徒の女子青年の行動と抱負は、世に對し重大なる感化と影響を有する事とて、基督の與ふる平安なる轡を負ふて其與へられたる光榮ある馳場を趨り、後進の爲に平坦なる途を開拓されん事を希望します

世界の大勢

鐵道院中部管理局長　長尾半平

今日世界に流るゝ二大潮流は禁酒矯風と民主的運動とである。日本にも此民本主義が流れて來て其を

拒む事が出來ぬから、日本の心ある人々は如何なる態度で是に當るかが問題である。

第一の人は云ふに日本には獨特の歴史があるからどんな者が來ても心配は入らぬ、旭に雪の消える樣に消えて仕舞ふ。

第二、其の運動は日本精神と相入れぬから、壓迫を加へよと叫ぶ。

第三、此大潮流を如何に適用してよいかと健實に思惟する人が入用と主張する。

日本には民本主義や、宗教を解釋する人が世間で尊敬さるゝ位置の人々の中に尠い。日本には獨特の歴史があるから、日本だけで行けるなどゝ云ふ人もあるが、米國から百萬噸の鐵が來ないとて大騷ぎをして、是は英國が日本が出兵せぬから其仇返しに米國に向ひ、日本を困らせてやれと煽動したのだなど愚にも付かぬ事を云ふて居る。或はデモクラシーなど盛になると、吾國の今日の狀態の樣に國が衰頽すると云ふて、其實は眞の宗教や教育のないから、あの樣になつたと氣の付かぬが心細い。米國の今日の燃ゆる如き愛國心の勃發は、眞の宗教と民主運動より來る人道、平和、正義などから湧出したのである。

今日、日本の一般にある成金氣質は幸福と云ふ事に就ても適當な尺度を持つて居ない、只飲食が其である如き樣である。神戸の常盤と云ふ料理屋は一ヶ月百萬圓の收入がある、即ち三萬三千餘圓と云ふ多額に上る(恰度日本基督教會の一ヶ年の費用)是を見ても幸福の、平和の、人道の正義のなどゝ云ふ世界的尺度がない次第である。丸善書肆で近頃賣行く書籍の傾向が變つて行くと云ふ。科學、工藝の本はよく賣ると云ふ事である。某會社等では成巧する者には臨時賞與をドシ〳〵やり配當を二十ヶ月分も與へるなど事實である、故に使はれる者でも月給の多い處を探して行き、賞與が思はしくなければ會社に向つて小言や、不足を云ふて恥ない、斯うなると主人側の者が品性等には少しも關せずして機敏な者のみを採用せんとする。大阪の一大會社の社長が社員後補者

に口述試驗をした時に、其質問の一つは、お前は道樂をした事があるかと云ふのである、青年が眞赤になつて立派に甚麽事はしませんと答ふると、其は僞を云ふのだと落第させると聞いたが、實に言語同斷である。斯く物質萬能主義が日本に瀰漫しては國家も社會も個人も永持ちはせぬ、それかと云ふてたゞ敎育萬能だと其丈では矢張り駄目である。人が幾ら利口になつたとて其で人格が造れるものでない、面白い支那の物語がある。宗の時代に大層人相をよく觀る人があり其人の許に大黒さんが、人相を觀て貰ひに行つた、彼は俵から下りて、打出の小槌も、袋も何もかも皆身から取つて行つたので、人相見が云ふには「お前さんは世から捨てられる貧相がある」と申たので大黒は立腹し、我は福壽無量の神であるに、そんな不吉な事を云ふとて怒り出したので、其ならば福を授けて御覧なさいと云はれたが、大黒は福を授ける道具がないから出來ぬので、誠に閉口したとの事であるが、今の物質萬能主義者に是がよく符合して居る。彼等にして其道具がなくなると何も出來ぬ。其で我々は人格と云ふ事を云ふが、其は基督の教訓に基礎をおき、其が根本とならねば今日の世界の大勢を觀破し、將來に於ける正義、人道、平和等の洞察が出來ぬ。唯自分の眼前の利益にのみ馳せる如きは眞の宗教がないからである。燕は四百尺見える。一秒間に五十尺の速力で馳け、一日六千五百の虫を食べると其學者が云ふたが、我等世界的に眼を用ひ、世界の墮落、沈倫し行くを如何にすべきか、世界は何に向ひ進みつゝあるやなどを思惟看破する必要がある。是に對して今日は只金言や、格言位で敎育をしても徒勞である、是非キリストに傚ひ、彼を信ずるの外はない。

世界は鐵火の敎育を受けつゝあるが之を悟る事の出來ぬものは亡ぶのである、聖書に聖靈をけがすものは赦されずとあるが、慥に神の道に進む機會を與へられ靈火の敎育を受けつゝ之に親しまぬ者は必ず救はるゝ道はあるまい。（婦人傳道會社主催傳道集會にての講演大要）

理想を生活する米國婦人

女子大學教授　上代たの子

昨夏歸國致しまして以來、米國婦人に關しては色色申述べる機會がありましたが、私は此處に猶ほ私の心に益々濃く鮮かになつて來る一つの印象のある事を略記して見たいと思ふのであります。それは彼等が理想を生活する人々であると云ふ事、即ち彼等の思想や感情は彼等の生活と離すべからざるものである。是れを換言すると彼等を驚く可き實現の力を持つて居る人々であると云ふ事である。

元來米國人を實際的な國民であると云ふのが定評であります。そして此れは眞を穿つた評であると信じます。併し實際的と云ふ意味が往々純物質的と云ふ義に轉解されて居る場合がないでもない樣であります。そしてそれが爲めに、米國文明を全く物質的であつて、其の根底若くは背後に、何等精的生命とも云ふ可きものが現存して居らぬと云ふ樣な獨斷が下されてる恐れがあります。現に私が渡米致します際、文學や哲學を米國に行つて學ぶのは所謂時と勢力との浪費である。米國文明は吾々に與へる可き思想力を持たぬと勸告した人さへあつた程であります。しかし米國を果して、しかく、全然物質的であつて、淡く淺い拜金以外に、何等注目に價す可き濃く、強いライフと云ふものを持たぬのでありませうか、今一歩進めて申せば、米國人活動の原動力は、物質欲でありませうか、または精神力でありませうか。

勿論此の二つは、多くの場合竝存するでありませ

うが、米國人の活動を少くとも、主として支配して行く力を僅かに後者に傾いて居るを斷言してよいと思はれます。身親しく米の社會に生活せるものは勿論の事、彼等が若い歴史を繰り返し記憶して見ても吾等が眼を眩惑せしめる許りな物質的榮華の根底に一味動かすべからざる精神力の存する事を認めずには居られないでありませう。殊に昨年米國が參戰した事實は公平に其動機と實行とを觀察して居る人々に取つて、最も痛快に、最も明瞭に彼等が如何に精神的な國民であるかと云ふ事を語つて居ると思はれるであらうと信じます。米國民には實に此の精神力が内に汪溢して居ります。彼等が物質的生活の皮一重を脱ぎ去れば、理想と熱心との血肉が躍動して居ります。そして此の理想は或は民主々義に或は正義人道に最も鮮明な旗色を見せて居ます。と云ふも、米國民は若き國民である。若きが故に理想の國民である。多くの可能と夢とを信ずる人々である。一直線に進み動く人々である。一面實際的な、現實主義者である樣に見せて、實は甚だ浪漫的な、理想主義者であります。然しこゝに讓つて米國人が何故眞の實際家であるかと云ふ事を暫らく考へねばなりませぬ。理想の人を必ずしも、思想の人と云ふ事を出來ない。そして思想と實行とは、多くの場合並行しないのであります。斯う云へば或る人は、若し是れが事實であるとすれば、何の爲めの思想ぞ、又何の爲めの經驗ぞと問ふでありませう。經驗の爲めの思惟又更に擴大すべき思想を刺激する經驗にあらざれば所謂經驗の價値皆無と云ふでありませう。思想と實行とは一つにして離す事の出來ないものであつて初めて道德も、宗教も、人生に意義が生じて來るのであると。是れは誠に尤もの意見であります。又眞理であります。少くとも眞理である樣に熱望するものであります。然し吾々實際の經驗から云つて、深く考へれば考へる程よく實行が出來るかと云ふに、必ずしも左樣に行かぬ場合が少くありませぬ。考へるが爲めに、感情が冷却し、活動が鈍くなると云ふ例

が甚だ多いではないでせうか。即ち思惟と熱心とは反比例するのが通例であります。と云ふのは、思惟すると云ふ事は、或る意味に於て、自らを客觀視する事である。普通吾々が思惟する時の事を、吾れを多くの立脚地點から見る。其の塲合吾々の情熱を一種統一支配されて居る形にある。普通吾れ〳〵が現實の彼に打たれ打たれてる間に、何時の間にか思惟の力を得て行くが、それと同時に情熱の自由の力を失つて行くのをみます。即ち思ひ切つて自分の欲するが儘に言ひ行ふ勇氣が思惟の分量と反對に消耗される樣である。是れは何も普通凡人に限つた事ではなく、哲學者なども矢張り考へれば考へる程冷靜になり、動く事が少くなる傾向を示す事は同じ事である樣であります。深く考へると、否な考へる餘裕が頭にある人を、つまり現實をその儘に觀んとする人である。思想と實行力とは此の種の人々に取つては逆行するのが通例でありませう。

併し前にも申し述べました如く、思想と理想とは區別して取扱はれるのが至當であります。何故と云ひますと思想が若し理想であるならば、其が實現の力とは、二つにして一つである可きであります。此の塲合には、深く考へれば考へる程、深く感ずる。故に考へる事とは自ら動く事になります。此の塲合の思惟をそれが深刻であればある程感情が燃えて來活力が汪然として溢れて來ます。と云ふのは前の塲合の思惟と、後の塲合の理想とは全然異なつた二つの內容或は態度を示すものであります。態度の如何に依つて、同じ一つの問題も一は人を益々冷靜な境に進め、他は益々熱情の域に導く樣であります。宗敎家と哲學者とは此の區別を多く明白に表示してるのであります。が此れを凡ての人に適用して、槪言しますと、思惟の人、及び理想の人とする事が出來ます。理想家は直線的に頭と手とを協働せしめて進みます。實行の可能不可能などを危む餘裕はありませぬ。理想と實行とは伴ひ得るものと信じて疑ひませぬ。疑はぬが故に實行が出來るのであります。憧

憬者が強いのは此の理由であります。
米國人を理想家である。が故に又實行家である。實際的であると云ふのは、主として此の意味に於てであります。彼等の理想とする處を實現して行けるものと夢想します。そして大抵の場合、全力を捧げて是れを實現します。今回の戰爭に對する彼等が態度等を、チーッと觀て居ますと、米國人の性格が甚だ鮮かに說明されて來ます。實際的に見えても高遠な理想が米國の全生活を支配して居ます。政界に是れを見ても、大統領ウイルソンが歐洲戰爭開始以來の定論と、政策と態度とは公平に觀察すれば慥かに民本主義と正義と人道との大理想を遺憾なく發揮して居ませう。政治外交に於て既に然りであります。社會、經濟問題に於いて斯くあるのは怪しむに足りませぬ。が彼等の理想が只だ、口先きでない事の肯かれるのは、吾れ〱の毎日直接に具體的事實として見、且つ聞いてる處であります。其の他教育、宗教等の運動が如何に活潑なものであるかと云ふ事は珍らしく取り立てゝ云ふ迄もない事であります。私の滯米中親しく見た彼等の社會改良運動、軍隊擁護の活動等に對する熱想は、迚も日本等に於て見る事の出來ぬ現象であります。殊に開戰以來ベルヂユーム其の他の諸國に對する彼等が同情は、金儲けをのみして居ると見做された米國人としては、一種大きな奇蹟を行ひつゝあるではありませぬか。それから自由、平和の爲めに生命を捧げて、遠く太西洋の波濤を蹴つて佛に渡る米青年の意氣と心懷には、言辭に盡くせぬ高潔原美があるではありませぬか。畢竟彼等の人道主義を眞の熱誠となつて、彼等の活動を內部から促して居るのであります。頭と胸とが溶けて一つの活力となり、全生活が理想の實現に化しつゝあるのであります。

斯く米國人は一般に、理想實現に強い人々でありますが、婦人は此の特徵が一層熾烈であると云つてもよからうと思ひます。米國婦人は容易に事に着手しませぬが、一旦着手すれば是れを何處迄も繼續し

益々其の活力を増大して行く傾向があります。此の特徴は其の依つて來たる處が、意外に深い樣に思ひます。即ち彼等は深く考へれば考へる程深く感じて行く程の人々である樣であります。婦人は一般に男子よりも遙かに精神的であり、又ある可きでありますが、米國婦人の精神力は、單に無形の勢力たるに止まらず、活躍して凡ての社會的現象に向つて、底力強い反應を示しつゝあります。斯くて今日彼等が國家に人類に貢献しつゝあります事業は、此處に枚擧する迄もない事であります。吾れ〳〵を潜かに彼等が活動の根本信念と、彼等が活動に對する熱想とを深く洞察して、吾々の生活の缺陷を顧る材としなければなりませぬ。

日本婦人も其の無形な精神的勢力に於て、或は多少貢献して居る處があるかもしれませぬ。然し吾々は誠に理想ある人々として、今少し實現の力を持たねばならぬのではありますまいか、吾々は如何も勇氣と熱心と實力とを缺いで居るではありますまいか。然し此の三つは三つにして實は一つである樣に思はれます。私は米國人は眞に理想の人であるが故に、眞の實際家であると申しましたが、若し吾々が今日の生活に顧みて、如何も未だ頭と胸と統一された、計畫と手と共に生活をして居らないとするならば、其の原因が亦其處にあるではありますまいか。即ち吾れ〳〵の理想が未だ如何も、しかく強い熱想でなくて、單なる思惟ではありますまいか。私は今日日本婦人が今少し眞面目に、内外に於ける現代社會の情勢を考察して、自ら誠に覺醒する處がなければならぬと思ふのです。吾々の覺醒は吾々の全生活の死活の依つて懸る所であります。誠の實現力を得樣とすれば、眞の理想を熱想せねばなりませぬ。理想を生活しつゝある、米國婦人の無盡藏の生命力の源泉は此處にあります。吾々日本婦人が大なる夢を見て、強く動かねばならぬ時が既に目前に來て居ります。

西洋の文明を學ぶには

一柳まき子（談）

「女史は米國ブリンマー女子大學に學ばれて九年間を彼の地に過され、昨年十一月一時歸朝されました、此記は記者が女史に面會したる際の談話の一部で校正を經て居りません。」

日本は今西洋の文明を學ばんとして居りますが、私考へますに、日本人の中には何でも日本でなければならぬ、西洋の事など學ぶには及ばぬと云つて西洋を嫌ふ人と、日本は駄目だと全然西洋の眞似をして、日本を非難する人との二點に走つて居る樣に思はれます。是等は何れも遍狹な考へ方であります。此世界は種々なる人種が集まつて一つの團體を爲して居るので、非常に性格の異なつた人同士が親密になる事もあります、これは各自異なつた長所と短所とが、しつくりと塡り合つた結果だと思ひます、恰度大工が家を建てるに違ひちがひの木を塡込む方が、同じ木を漆で付けるより堅牢であると同じ樣に、長所と短所とが塡り合つて、固い而も圓欒な社會が出來るのであります。而し全く質の異なつた松と桐とは塡め込む事が出來ません樣に、人間と云ふ者が國に依つて異ふものなら、結び付く事は不可能でありますが、私の經驗では人間其物は何處でも同じである事を發見致します、して見ると人種が異ふからと云ふて西洋人を下目に見るにも及びませんし、日本人に西洋人と同じ長所を持つて居ないからと云ふ

て、日本人特有の美點迄捨てゝ西洋人の眞似をするにも當りません。曾て私に或米國人が日本文明は或點に於て西洋のそれよりも高いと云はれました。例令ば日本の繪書の如きは西洋の油書の樣に丹青の妙をこらさず、而も簡單な筆法で實は生命あるものが現はれる。又建築にしても日本の窓はよく自然の學理に基いて地球の引力に逆はないで左右に開くが、西洋のは上下に開く、是等は遙かに日本の方が進歩して居ると云はれました、斯の樣に大きな眼から見ると日本にも中々開けて居る所があるのですから、唯短所のみを知つて卑屈に成には及びません、短所と長所とを知る自重心が必要と思ひます。一口に斯う申しますと容易な事の樣に思はれますが、自分で自分の長所短所を知る事は困難で御座います。而し國としては我が國の歴史を研究し、繪書、美術などを理解する事が出來れば、自然長所も解つて來るでありませう。其と同時に我國在來の精神界の歴史、即ち武士道も知る必要があると思ひます、私は現今武士道の廢れた事を非常に殘念に存じます、武士道に於ける高潔なる思想即ち強者は弱者を助け、人情に生き、身を殺しても精神を尊ぶと云ふ點は、基督の御精神と似通ふて居ると信じます。この武士道に於ける高潔にして堅實なる精神を持て基督を信じなければなりませぬ、斯る確固たる信念があつて、日本の人情文物に通じてこそ初めて西洋文明を正確に了解する事が出來るので、いろはから手習をしなければ式紙や短册に美しき歌など書けぬと同樣で、西洋文明を知るにも土臺を作つてかゝらねばなりませぬと思ひます。

日本の婦人に就て考へて見ますに、現在の婦人の如く實に世間に疎く、自分の身廻りの事さへ如何に處理してよいか解らぬと云ふ有樣では、とても西洋文明などを學ぶ事は不可能であります。私はもつと今の婦人が生きた學問をし實社會と並び立つて行かねばならぬと思ひます。日本の將來は實に多事であります。而して其多くは婦人の力に依ると存じま

す、其最も急務なる男子の道德不腐を改善するも婦人の手にあると云ふことは世界一般に認めて居ります。此道德改善と云ふ事は獨り日本のみでなし、吾吾日本婦人も世界の一部に在る事を理解し、人間社會の道德を改善すると云ふ廣い覺悟がなくてはなりませぬ。然るに其眞髓ともなる可き武士道は廢れ、宗教は知らず例令基督を知つても、其信仰浮薄な柔弱なるものでありましたならば、社會の改善等期するは不可能であります、どうしても昔日の貞女節婦の如き高潔犯す可らざる思想をもち、神の御精神に依つて進まねばならぬと思ひます。(在文責記者)

幻影か實景か

金子薫園

今日は一天麗らかに晴れて、海は紺青を流すやうな平らな凪である。白砂の上に並び立つ青松の根もとを洗ふ波の音もゆるくのどやかである。白い砂は何處までも續いて、青い松もそれに伴つて立ち連つてゐる。松と松との間に處々漁家らしい藁葺が點在してゐる。其の一軒から晝餉の煙が白くあがつてゐる。廣い、はてしもない海原を控へて、其の細い一すぢの煙がいかにもはかなげに別に離れて見えてゐた。と、其の家から五六歲の小兒が出て、紺青の海を望んでゐるではないか。

其の一すぢの白い煙は、此の小兒の出現と共に、離れたものと見えなくなつた。小兒はやがて蹲んで

すぐ前の貝をいぢつてゐたが、それにも倦んだらしく、又廣い海原を見出した。

小兒の眼の前遠く、白い一帆の影が見えた。小兒は手を擧げてそれを招くやうなさまをした。小兒はつゞいて聲を出して、今度はほんとうにそれを呼んだ。呼べばすぐに向うへ其の聲が達いて、其の白帆がぢき此方へ來るやうに思つたのだらう。小兒は聲の限り呼んだが、白帆は依然として沖遠く見えてゐる。走つてゐるのか止つてゐるのか分らぬやうに見える。小兒は其の白帆を呼ぶにも倦んで白砂の上を駈け出した。日は暖かで小兒の額のあたりは、汗ばんで來た。いつしか白い犬が、其の小兒と共に走つてゐた。犬も小兒も疲れて、松の根のもとに休んだ。其の松は並んで立つてゐる中で一本きは立つて高かつた。其の松の頂邊で不意に鷗が啼いた。小兒も犬も一やうに其の鷗を見た。鷗は其の下に小兒のゐることも犬のゐることも知らないらしく、又啼いた。小兒は自分達の存在を無視してゐるやうな鷗の態度が癪に觸つたか、小さい兩の手に全身の力を籠めて、其の松の樹を搖らうとした。無論松のさ搖ぐわけは無かつた。犬は小兒の後に、默つて見てゐる。鷗は又啼いて、羽ばたきすると、海の方へ飛んで行つた。小兒の家の藁葺の軒から、晝飯を告げる聲がすると、小兒はあわてゝ其の家へ駈け込んだ。

油を流すやうな紺靑の海は、日に輝いてゐる。白帆が又一つ殖えた。矢張り動いてゐるのか、止つてゐるのか見えない。白い犬は波打ち際に揚げられた藻を嗅いでゐる。

小兒の家から煙管を啣へた老爺が出て來て、一寸海の方を見てゐたが、そこへ蓆を敷いて、網をすき初めた。いつしか鷗が五六羽飛んで來て、此の老爺のほとりに遊んでゐる。老爺はこれに目もくれないで、馴れた手つきで網をすいてゐる。

海の光は、輝きを增して、並び立つ此の磯の松の一本一本を照り返す。此の光の世界の中に網をすいてゐる老爺と、五六羽の鷗とが、思ふさま光を浴び

て動いてゐるものであつた。と彼の小兒の姉らしい少女が出て來て、老爺の肩を搖ぶつてゐたが、老爺は何とも言はなかつた。少女の髮の毛は赤茶けて、顏は潮風に黑いが、眼の凉しい、鼻の高い、キリッとした顏立ちをしてゐた。老爺が默つてゐるので、少女は前よりも激しく肩を搖ぶつたので、辛と少女の方を見る。少女が何か手眞似をすると、老爺は首肯いて家に入つた。

少女は啞であつた。老爺も去り鷗も去つたあとの光の世界を獨占してゐるものは此啞の娘であつた。娘は薄倖な身をつゆ嘆つやうな容子もなく、伸々とした顏附をして、松の樹に脊を凭せたまゝ、輝く海を見てゐた。其の樣は恰も此の憐れな少女にも聖代の大御光が降りそゝぐかのやうであつた。

私は「海邊松」と云ふ御題について、默想してゐると斯うした幻影が私の眼の前に浮んで來た。小兒——老爺——啞の娘、之れに附屬して白い犬、鷗の姿——それから廣い紺青の海——青綠の松並木——はてなく續く白い砂が、幻影とは思はれぬ程瞭りと眼の前に見える。

幻影か、實景か、私の眼はそれを見分けることが出來なくなつた。

ギヨン夫人傳（一）

トマス・ウフハム氏のギヨン夫人傳に據る

森田松榮

生立

ギヨン夫人は一千六百四十八年四月十三日に、巴里の南方五十哩斗りの、モーテージといふ、かなり名の知れてゐた邑に生れ、五月二十四日に洗禮を受

けた。

父はモットといつて郷の稱號もあり、その邑での重立つた人物であつた。兩親とも、宗敎心が篤かつたが、殊に父はさうであつた。ギヨン夫人はジエニー・マリーといふ名であつた。彼女には二人の姉と一人の兄とがあつたが、一人の姉は母の連れ子で、あと二人の兄姉は父の先妻の子であつた。

赤ん坊の時は、彼女はかよはくて、助かるかどうかと心配されたくらいであつた。三才の時にウルスリン派の尼寺にしばらく預けられたこともあつたが、間もなく家へ引きとられて重に女中任せに育てられた。

彼女が五歳の時に、モンバーゾ公爵夫人が、その邑のベネデクト派の修道院に住みに來た折、幼い彼女を懇望して、その修道院に伴れていつた。其所では、見ること聞くこと一つとして善からざるなく、彼女はいい感化を受けた。彼女は幼いながらも、神のことを聞いたり、禮拜することが好きであつた。此所で彼女は懇切に扱はれてゐたけれども、何分にも蒲柳の質なので、程なく此所をも去らなければならなかつた。歸宅後は又前のやうに、女中委せにしておかれたので、德性や行儀などの十分なしつけは自然缺けてゐた。

七歳の時、彼女はまたウルスリン修道院に入れられることになつた。其所には彼女の姉が二人とも既に入つてゐたのであるが、父はその一人を撰んで、彼女の敎育を託した。この姉は父の先妻の子であつたが、信仰が篤く聰明で、ことに少女の敎育に適材であつた。

この敬虔な所深い姉は、信仰のこと、學課のこと、何くれとなく、妹を導き敎へ、妹はまた、常に著しい進歩を示してゐた。偶々他の少女達の風に感染して、すねたり、信仰のことを心に懸けなくなつた時もあつたけれども、姉のたゆみのない心盡しによつて、彼女は一寸の間受けた惡感化を全く振り落して、學課にも信仰にも、進歩を續けていく、もとの

善い少女となつた。

革命の爲に殺された英國のチャールス一世の王妃マリアが佛國へ亡命中、高位のモーゼ卿を訪問したことがあつた。或日ジエニー・マリーは、いつものやうに家からの使をうけて、歸宅して見ると、はからず英國の王妃が訪問してをられた。聰明で活潑な少女を愛でて、將來我王女の女官にしたいから、息女を申受けたいとの、王妃の切な頼みを、父が拒絶したのはマリーが九歳の時であつた。彼女は十一歳までこの修道院で過して、それから家へ歸つた。

程なく、父の友人で、ドミニク派の修道院長をしてゐた、ある高貴な婦人が、マリーを可愛がつて、彼を自分の室に置いて世話をするから、マリーを預けさせて欲しいと切りに頼んだので、又もや十一歳のマリーは修道院で暮すこととなつたが、院長には、いろ〳〵手のはなせない樣な用務が迫つて來たので、約束どほりの世話はなか〳〵出來なかつた。然し、此所で彼女の全生涯に非常な感化を與へるやうになつたことが起つた。誰が忘れていつたのか、置いておいたのか、彼女は自分の室に或日聖書を發見したのであつた。その修道院では、個人として聖書を所有してゐたものも、使用してゐたものも無かつたのである。これは彼女によつて新らしい世界であつた。彼女は朝から晩まで、傍目もふらず一日中讀み通しに讀んで暮した。そして非凡な記憶力の持主であつた彼女は、歷史的の部分をすつかり暗記して了つた。後年彼女の全生涯を通じて、これは何れほどの力になつたらう、靜かに聖書に親しみ、聖書によつて神の聖旨をうかがふに至つた彼女の生涯は、この時から萌したのであつた。この修道院に八ケ月を過した後、彼女はまた家へ歸つた。

十三歳の時、父の發意でまたウルスリン修道院に入れられたが、常に自熱に信仰を懷いて、主キリストに在る生活から、はなれたことのない姉の、いつに變らぬ、やさしく熱心な指導には、信仰よはき妹も、強い感激を起さずにはゐられなかつた。姉を見

ると彼女は黯然としてその信仰に倣はうと努めた。然し何といつてもまだ若い信仰であつた。ことに其頃彼女はめつきり、丈ものび、後年もてはやされた美しい顔は、はやくもあらはれ初めて來た。其上彼女の母は、服裝の趣味に彼女が凝るまゝにした。彼女の信仰は、恰も波のやうに、一高一低、靈界と物界とを上下した。或時は祈深く凜と引き緊つた氣分、或時は我しらず醉ふてあまい空想から醒めた時の、身のおきどころもなき悔恨、淸き星に憧れて心澄めば、奇しき花の香にむせびて魂わななく、感謝の日と涙の日を、繰返しては重ねてゆく、若き處女の日、然し喜びのうちにも、涙のうちにも、彼女の靈魂は訓練されつゝあつたのである。

（つゞく）

杭州行

河井道子

上海より出航の時日二日延期したるを以て、同教會婦人會の好意に依り、有名なる杭州の見物をなし得たり。支那通の稱ある內山完造氏は案內者の勞を執られ、同氏夫人及び稅田美代子氏も同道され、初めて支那內地の旅行を經驗す。抑杭州とは浙江省の都會にして上海より汽車にて五時間を經る所なり、此處に西湖とて少しく漢學を聞嚙りたる人さへも暗誦する如き勝地なり。先汽車の窓より郊外を眺むるに渺茫たる平原、又耕作されし田畠の何處にも堆き塚の諸所に斑點するを第一不思議に思ひ尋ぬれば、

之は皆墓なりと。支那人には墓地として區劃せし土地を有せず、死者あれば占者の言葉に從ひ、何處なりとも墓を作るを慣例とすれば、支那到る處に墓地ありと云ふ如き狀態を呈す、而も埋葬には日本の如く土を堀り崩さずして、棺の上に土を盛るを以て從ひて小丘の如き形狀を呈するなり。然れば墓と墓の間に野菜を作るなり、果樹を植うるあり、家の直ぐ傍に墓地を見るありて、墓故の家か。家故の墓かを疑はしむ。若し人ありて土地を買ひ此處に建築せんとせば、其墓地を移轉せしむるに莫大の費用を要するなどは、迷信よりして墓を移すを厭へばなり。墓所以外に異樣に思はれしは、何處を眺めても坦坦たる土地にして、山脈の如き日に映ずる事なく、何處迄も大陸なりとの念を深からしめし事なり。

　午後一時下車すれば、我女子青年會々員坂部いち子夫人の御主人坂部多三郎氏吾等一行を迎へられ嬉しき心地す。停車場の改札口にて男女を區別して所持品の檢査をなす。支那には各省に稅關ありて一々その檢査をなすものなり。

　上海は外國人の租界たれば純然たる支那の模樣を知る事難けれ共、杭州は是に最も適し、實に一見百聞に如かずとの眞理を味ふを得たり。同時に外國に行き言語の通ぜざる如何にも苦しく、此地に一兩年滯在するものなりとせば必ず支那語を學びみんなど用無き決心をなすも面白し。停車場を出づるや日本のそれと同じく旅客ひき車夫など喧々囂々として恰も火事場の現狀なり。坂部氏も內山氏と同樣に支那の事物に精通せられ、殊に前者は杭州日本人租界に於て、農事試驗所を開始されし基督者紳士たるを以て、吾等三名の婦人はこの二人の案內者を得て旅行し得たるは、皇族と雖も尙難き特典たれば、大安心と喜悅を以て腕車に乘ず。市街の大抵は街幅狹く敷石の凹凸甚しきが上、乘客には一向にお構ひなき車夫が無暗に曳き廻すその動搖恰も大地震に堪えず攻めらるゝ如き心地す。加之車夫は各自學校用の如き鐘を振鳴らし、聲の限りに叫び合ひ、行きかふ車夫

等の挨拶か、或は罵言か、頭の飛ひ出すばかり互に叫び合ひ、鳴らし合ひ敷石の上をがた〳〵と曳き合ひ走り合ふ樣、百鬼夜行に雷の樂隊を伴ひし如し。往來の兩側を見渡すに飲食店の數多きに驚かざるを得ず、その中にも肉類、蒸し饅頭の如きパン菓子の類最も多きを認めたり、又辻々の喫茶店には常に群衆引きも切らざる有樣なり、斯る場所に於ては僅かに四五錢を出し、朝から夕に至るまで茶を飲み互に商買の取引き、或は相談事を爲すなりと。其他飲食店の樓上より茶を喫しつゝ市街を見下し、悠然と見物なし居る有樣は巴里や伯林などの休憩室やビーヤホールに酷似す。

車夫が我々を下せし第一の場所は宗の岳飛の廟墓是は漢學者の尊敬地にして、日本よりの漫遊者は必ず此處に參詣するを常とす、此處に朱子の物せし忠孝の二字を彫り付けし大石碑あり。この石碑の墓擦りは必ず日本人の土産として購求するものとかにて、よく地方の小學校或は女學校等の構堂に見る所のそれなり。此處にて樣々の面白き歷史物語を聽きつゝ淸蓮寺に行く。寺内に鮮鯉を幾百となく淸水に養ひ顧客の興に供す。此處にて可笑しき事は鯉に麩をやりしが、其麩の代價少なしとて僧侶に叱咤されし事なり。彼は五月蠅くも後より附き纒はれ殆ど喧嘩的に別れたり。其より靈隱寺とて其風景や、日光の一部分を寫せし如き幽邃なる場所に來る。其入口に飛來峰と名づくる岩石の壘積せしものあり、傳へ云ふ、天竺より飛び來りし物なりと。是の岩に幾多の佛像を彫刻しあるが、其輪郭の美しき普通の寺院等にある比に非ず、千年前とかの彫刻なりと一僧侶は說明せしが事實とせば昔日の美術に於て卓越せし事を證するに餘りあり。進んで寺院内に入るに外方よりは中々莊嚴なる建築にて、四方の自然的配致の調和せる確かに宗敎心を强むるに値すれども、愈々本堂に入れば、只大入道の如き金箔の巨像が三個立並び居りて、周圍に何の裝飾もなく四方の壁は灰色にして、床は石を敷きつめしのみ、優美の點なく莊

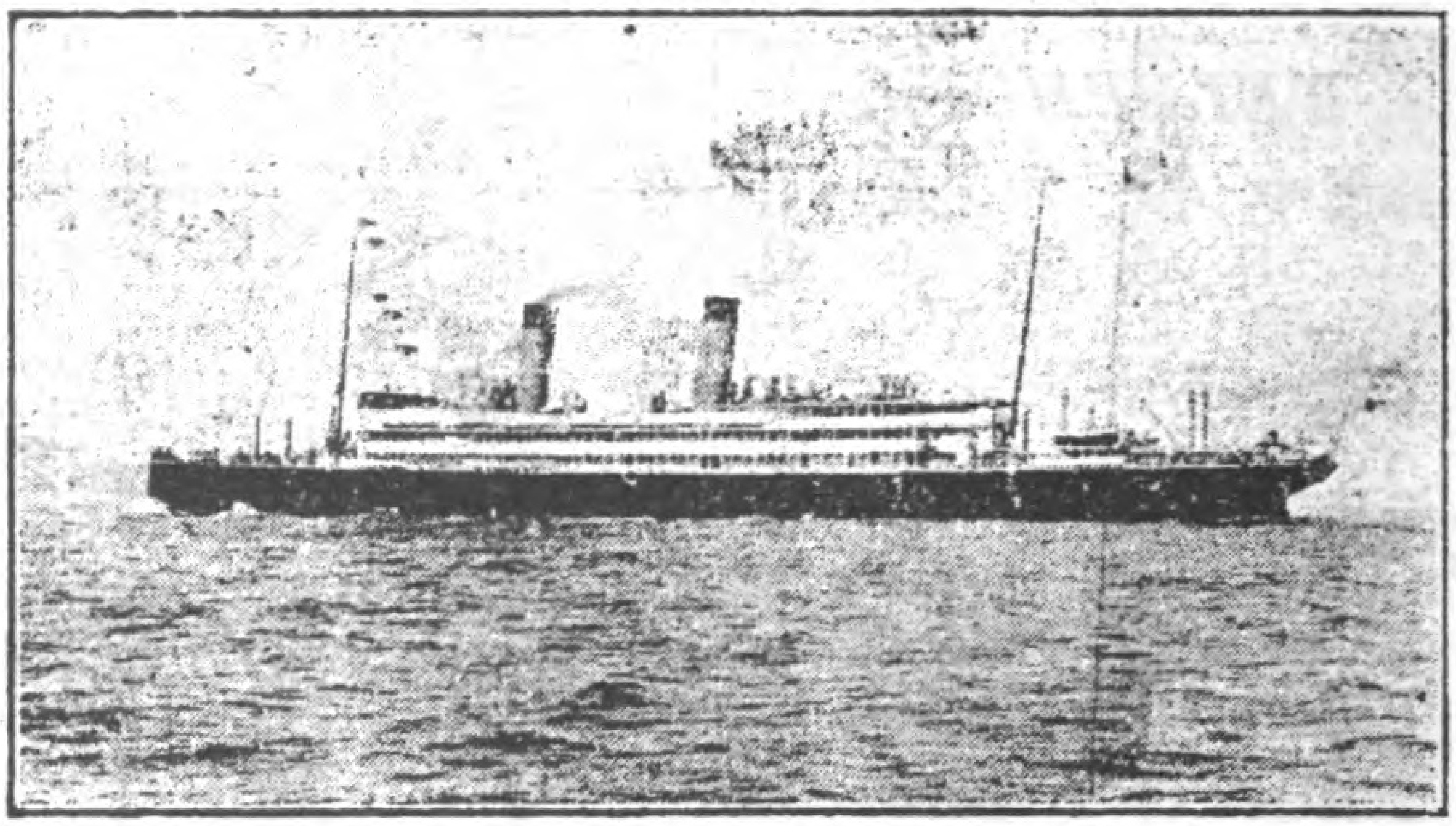
厳の思ひ毫もなく僅かに米國オリガン洲の赤松の大柱数本が殊に目立ちて、この建築に莫大の資金を投ぜし事を語るのみ、凡て殺風景の氣分充滿して支那人には奥床しき宗教心の有無を疑はしむ。この傍りに五百羅漢を祀りし處あり、東洋最初の探險者なるマルコポーロも其中にありと聽き僧侶に導かれて、是を見るに傍に並び居る金箔の羅漢と何の異なる處もなく、唯額の格別に突出し鬼々しき人相と長靴とが、外國人かと思はしむるのみにて滑稽に感ぜり。見物終へて阪部氏の宅に赴く途中、城外と城内との車乘換驛に來りしに、車夫の賃金を强求する一方には、乘客を我俥に乘せんと競爭するありて其喧しさ相合し、修羅の巷とは如斯を云ふならんと恐ろしさに瞑目し、七重八重に取圍れつゝ案内者二人の談判の成行を待ちたり。是れにて外國婦人宣教師方の支那の內地旅行の困難と彼等の勇氣とに敬服せざるを得ず。日暮るゝ頃、市外なる坂部氏の閑居に着く。抑坂部氏は先年北米合衆國にて神學を修められ、該地の諸所にて日本人間に傳道をなし、特に吾等同胞婦人救濟の爲め全資力を投じ借債をなしてさへも、之が爲に奮鬪されし勇士なり。歸朝後茨城縣下に一教會と牧稱され、次で上海の日本基督青年會の主事として、其任務を盡され居たりしが、一昨年より杭州に於ける日本人租界にて農事試驗所を開始され、以て開拓者として內外人の利益を圖り、近き將來には基督者殖民地を設け農學校をも設立せんとの大計畫を有せらる、同夫人は早き頃より、本誌を愛讀せらるゝ方にして、淋しきこの土地に滿腔の同情と、忠實なる勤勞を以て主人の事業を補佐さるるは敬服の他なし。住宅は煉瓦造りの一階家にして、西洋、支那、日本を折衷の便利にして心地よき建物なり。其他に支那風の壁造りの小屋四軒と、小丘に建てられし東屋とは、皆一年間の經營なりと聽きて、其進步の迅き全く勤勞の効果にして、將來の發展を偲び吾々も此處に來りて開墾に從事し度き思ひす。到着間もなく夕食の饗を受く、主人夫婦の歡迎言葉に盡

し難き迄にて、斯くも多勢俄かに來りしに、其が爲とて俄造りの食卓に、鳥鍋の御馳走は溫きもてなしの露出なり。卓上にあるもの豆腐の他は、皆農場にて作りし品々と主人公が御說明「此鷄は吾家の鷄。此菜は作つて見たが大出來であつた、この葱は到底內地では見る事の出來ぬもの。此漬物は畠に出來た大根と白菜。此米も今年收穫したもの。此菓子は吾家でとつた麥粉に家で飼つて居る野羊の乳とバタとで作つたもの。此卓は空箱から諸君の爲に俄かに構造たもの」と伺ふ中に眞心が鳥鍋の汁となつて流れ出るなど、斯る嬉しき饗應は世界に比類なかるべしとて、食事終る見込なきまで食しつゞけたり。十時頃より共に讃美をし聖書を讀み感話し、夜の更くるも忘れ神の祝福を祈りつゝ、寢に就きしは眞夜中なりし。翌朝未明主人公は既に鷄の世話、野羊の乳搾りに忙しく、主婦は臺所にて吾等の爲に支那人の下男を指圖して食事のしたくに忙はし。其間我は渺茫たる原野を見渡し、開拓されし二町半の地所を眺め、葡萄の苗を熟視し、桃の若木を數へ、小犬と戲れなどして、さし昇る朝日の光をおびて新淸なる空氣を飽く迄も呼吸し壽命を延したり。

九時頃に又も坂部氏の案內を受け、主婦と別れて西湖の傍に腕車を馳す、第一に領事瀨上氏を訪問す、領事館は湖畔の最も眺望麗しき地にあるを以て人々稱して別莊と云ふとか。領事はいと懇に一行を迎へられるゝ中に夫人も來られ、溫情溢るゝ極打解たる物語りさへありて舊友の心地せり。同夫人は昔廣島女學校在學中、女子靑年會が開催せし夏季修養會に列席されし事もありとかにて本會や敎會等の話に花咲き、御夫人御家族の信仰談に及び、別れの際には一同祈禱をなして、再會を契し如きは實に信徒ならでは味ひ得ざる交誼と云ふべし。

瀨上領事は御親切にも其附近を御自身にて案內さる、領事館より直ちに蘇堤を渡つて、舊行宮今の公園地に赴く。西湖には蘇東坡の築きしものを蘇堤と云ひ、白樂天の築きしを白堤と稱して、湖水の深淺

東洋汽船株式會社



本社 東京市日本橋區通り一丁目（電話本局四〇八〇、四〇八一番 四〇八二）

營業所 横濱市山下町四番（電話四四〇〇、四四〇一番 四四〇二、四四〇三番）

出張所
神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング
上海四川路ノース、チヤイナ、インシユランス、ビルヂング
マニラ チヤコビルヂング
桑港、マーケツト街六二五

北米航路（桑港、布哇、横濱、神戸、長崎 上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穏なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

天洋丸	三重螺旋タービン機	排水量	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双螺旋機	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同	二〇、〇〇〇噸
日本丸	同	同	一一、〇〇〇噸
波斯丸		同	九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、ホノルル、桑港 羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、五〇〇噸
紀洋丸	同	一七、二〇〇噸
静洋丸	同	一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設置あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

THE HOSPITAL PHARMACY.

GINZA. TOKYO.

TELEPHONE SHIMBASHI 2334.



◎歐文和文處方調劑
◎歐米有名賣藥各種
◎舶來化粧品各種
◎醫療器械各種
◎舶來滋養品各種

東京京橋區銀座尾張町一丁目一番地

銀座藥品部

（舊聖路加藥品部）

電話新橋二千三百三十四番

弊店は正確誠實迅速を旨とし凡て責任を以て販賣致し候間何卒御用被仰付度候

に從ひて湖中に長堤を築きて全湖を三劃す。蘇堤の眺望は東京上野不忍の池にさも似たり、聞くならく不忍の池は此處を摸擬せしものなりと。此行宮は先年支那共和政府に移りし時、公園として開放されし物にして、其中に圖書館あり、又支那風の庭園は諸種の園遊會に用ひらるゝ便なりとぞ、此附近に有名なる碑多し。其中一二を擧げんに蘇小小墓、秋瑾墓址の二址は婦人の記念碑にして、前者は隨の時代に於ける一貞女を近代に於て祀りしもの、後者は下田歌子女史塾にありし秋瑾と云へる一支那婦人深く時世を憂ひ、國家の爲に身を捨てんと決し、有力なる滿洲人を刺さんと企て、縛につき遂に死刑に處せられしを祀りしものなりと。吾等は時間のなき儘に、領事より仕度し給ひし舟に乘じ、湖上の客となれり。此日天高く晴渡り暖き事春の如し。水上實に鏡の如き滑さに、湖畔の景色水に映じ、連山色鮮かにして吾等を祝するが如し、坂部氏は米國加洲スタリトン市にての路傍傳道の經驗を語り、當時獨唱れし讃美歌を聲朗かに唱はれたり。一行蕩然として心は樂園に遊び、身の何處にあるやを忘れゐたる中に、舟の對岸に近づけるに氣付き持參せし食事を開く、坂部氏の御自慢なる紅緋が魔法瓶より蒸氣をたて、内山氏が上海より吾等の爲に持ち行かれし茶碗が其處へ飛出し、朝がた坂部氏が手製のハットケークが別の包より出ると思へば、内山氏は御持參のパンとバタを並べられ、用意周到婦人の及ぶ處にあらず。税田美代子姉、内山みき子姉と我との三人が、却て男子方の御給仕に預りしも又他にて受け得ざるの待遇なれば、大喜で別に恐縮はせで、心身共に伸々として舟中にて食事せし彼經驗は年老るに從ひて樂しき思出となる事と信ず。停車場に到れば瀬上恒子夫人が御見送り下されて西湖の寫眞を賜はり、其に一首添へられし御心の床しくも又尊し。

我こゝろ神に通してよき人を
送り來ましぬ小春日の朝

斯くて二時に再び車中の人となり坂部氏瀬上夫人

に別を告げ上海に赴く。斯る美しき二日を送りしも唯に風光肩美の域に遊びし故ならで、坂部御夫妻、瀬上御夫妻等の親切に加へ、内山氏御夫妻、税田夫人の如き、大切なる時間を吾爲にとて捧げられ、この行を賑はし給ひしに依れば、此處に又感謝の意を表するも當然の事なるべし。實に信徒の交誼こそ神の一家族の親睦を表はすものにこそ。

降誕祭

東京女子青年會

常盤木のみどり。

眞赤な木の果。

それからクリスマスにはなくてならぬ蠟燭の光。

暮れやらぬ午後の陽の中に堂内を賑かにする光は、蠟燭ではなくて喜にあふれた皆樣の晴やかなお顔なのでした。

今日はミス、ペーヂの司會の初舞臺とうかゞへばツリーにせばめられた空虚な講壇を凝視する私共の眼には、心の底からこみ上る樣な微笑を禁し得ませんでした。

上海行のお旅疲れのあともなく河井先生がやさしく微笑なさりながら愛兒等を見廻して音もなく志立夫人のお隣にお腰かけになると、黑い暖かさうな服のミス、ペーヂが身輕に講壇にお上りになりました。

瀧澤斎恵氏のピアノに續いて主の御降誕を祝ひまつる歌聲が、一しきり會衆全體の口々から高く朗かにもれて天にもとゞけよと思はれました。

納戸町の有志の歌の半でぱつと一時に燈つたツリーの電燈が妙音に醉つた私共を一寸驚かせました。私共の心の琴線を思ふが儘にあやつり動かしたミス・マギーのヴァイオリンの高音が細く長く胸をそゝる樣に震へて、餘韻を惜しんでボンヤリ見あげた目にうつの祝る姿が今更の樣に時の經たのを知らせました。ミス・ペーヂに導き出された莞爾な三谷先生のお話に、私共もサー・ランフオルの幻に鑑みて「我武裝や如何」と問ひ糺さゞるを得ませんでした。

「こんな場合に長話は……」とお結びになつた先生の優しいお心が又なく嬉しうございました。

安藤坂寄宿舍有志の歌が終ると天井の電氣が急に消えて、消し殘されたツリーのあかりのみ淡く堂內に流れて居りました。その朧な光の中に獨りツリーの側に座つたミス・ペーヂの美しいお顏が嬉しげに又淋さうに何處かをぢつと凝視めていらつしやいました。背後の高所に起つた靜な合唱。會衆のサイレンスを破つてむせる樣に流れ來る、クリスマス、キヤロルの歌詩がその昔ベツレヘムの野の空高く、救世主の降臨を告げた天使の歌聲かと思はれました。

惜しんでも惜しみ切れぬ今日の會は、靜な力强い河井先生の祈禱と、それに續いたベネディクションの合唱に閉されて、滿堂の姉妹達は思ひ〳〵に夜の闇の中に散つて行れました。星空を仰ぎ見ながら。

好友園のクリスマス

坂　好子

「もう幾つ寢るとクリスマス？」と朝ごとに指折り數へて、あと十、九つ、八つ、七つ、六つ…………と、待ちに待つたクリスマスが、明日にせまつて參りました時、皆で一緒にクリスマス、ツリーに、飾付を致しました。銀の星や、紐、サンタークロースの人形、子供達が一生懸命に造りました鎖ダルマで飾り終つた時、一同は手を打て喜びました。

愈々今日と云ふ廿二日は、暖い日でございました。九時が打つと登園したのは元氣な俊ちやんで、それからは引續いて三人四人打連れて參りました。男の兒等が室の裝飾の美しさに呆れ、女の兒等が新しいリボンや長い袖を喜んで居るうちに十時になりましたから祝賀式を始めました。

園兒四十一名と青年會のカフマン先生、安藤坂の大西先生、園兒の母君達や兄弟、近所の人々と嬉し

く賑かにお祝ひ致し遊佐先生から「太郎さん」のお話を面白く聞きました。贈物としてお菓子、蜜柑、繪本、お手玉が渡された時、手拭やハンカチーフを擴げて包まふとあせる子供の顏には、包みきれぬ悦びが認められました。

「先生、皆ほんとうに呉れたの？」と、松ちゃんは私を見上げました。「さうですよ」と申したら驚いた眞面目な顏は、急に笑顏に變り「嬉しいなあ」と叫びました。神の賜なるキリストに對する驚きと感謝と喜びの叫が、この可愛いゝ子供達の一人一人から、洩れなく發せらるゝ樣にと切に祈りました。

　廿三日午後一時からは、日曜學校のクリスマスを致しました。子供たちは百二十人集りまして、歌に暗誦に對話のうちに、ありし昔を偲び參らせ、心の限りお祝ひ申しまして、加藤高子樣にお話して頂きました。贈物は有志者御寄贈の古繪ハガキやカードを利用して作りました物と、蜜柑を與へまして二時半頃閉會致しました。

妹

（回想）

能勢克男

僕には、死んだ妹が一人あつた。その妹が死んだために、今の妹が生まれたのだと思ふ。その妹は生まれて百日位、生きてゐて死んだ。名は美濃子と云つた。岐阜に父が、つとめてゐた時生まれたので、美濃の國の名をとつてつけたのだつた。

　妹が生きてゐたら、今十七になつてゐる、馬鹿だつたか、利口だつたか、美くしかつたか、醜くかつたか、あまり赤ん坊の中に死んだのでわからない。寫眞が一枚ある、その寫眞は母が見るといけないと云つてしまつて、しまつてある。その寫眞で見ると口を開いて、ぼんやりした眼をしてゐる。あまり利口でも、あまり美くしくもなかつたらうとは思ふ。しかしやつぱり、生きてゐたら、なほよかつた氣がする。僕にもう一人、今の妹と僕との間に、どこか

僕達と似た所があつて、どこかまた違ふ所のある妹がゐたらよかつたと思ふ。妹は殊に姉さんがあつたらよかつたと思ふらしい。

何しろ、あまり赤ん坊の中に死んだので、別にそんなに惜しいとも思はないけれど、ゐてくれたらよかつたと思ふ。何にも知らないで死んだのだ。何か喜ばせることが出來たかとも思ふ。喧嘩もしたらうと思ふけれど、何故か、死んだためかも知れないが、その妹は優しい、今の妹よりも内氣な女ではなかつたかと云ふ氣がする。生きてゐたら僕もいろいろのことをして貰つたらう。しかし、喜ばしてやることも出來た氣がする。そう思ふと、とりかへしがつかない様な氣がする。

妹が生まれて、死ぬるまで百日間しかなかつた。その頃僕はまだ七つ位だつた。だから妹のことについては、殆ど何にもおぼえてはゐない。極くかすかに、斷片的に少しおぼえてゐることがある。

生まれた時のことは、おぼえてゐない。しかし、まだ母が産後で寢てゐて、赤ん坊がその側に寢てゐた。そして誰れか、母の女友達が見舞に來てゐた。僕はそこに這入りこんでゐた。女の人が赤ん坊を賞めた。そして、しまひに赤ん坊を抱き上げた。その時のことは憶えてゐる。赤ん坊の長い着物が下つてゐた。その女の人が僕に、坊ちやん、赤さんを下さいませんか。と云つた。僕はいやだと云つた。それでその女の人が、もつとからかつた。どうしてもいたゞいてゆくのだと云つて、抱き上げた。僕は、眞劍になつた。本當に取つてゆく氣かしらと思つた。あまりシツコクからかつたので本氣になつた。そして、ヒドク泣いた。女の人はビツクリした。噓ですよ、噓ですよ、と云つてなだめた。母が、その女の人に氣の毒がつて、僕を憶病だと云つて叱つた。あとで耻かしくつてしかたがなかつたので、いつまでも泣いた。その時、憶病だ、兄さんになつたクセにと他人に思はれたらうと思つて、耻かしかつたのは、忘れられない。

妹は肺炎で死んだのだが。始めて、病氣になつた時は夜中だつた。僕は祖母と寢てゐて、おこされた。母の部屋に行つて見たら、赤ん坊はヒキツケてゐた。そして母が赤ん坊の前に、のしかかつて、泣いてゐた。母の泣き樣は、本當の心の亂れたもの丶前後不覺の感情的な泣き樣だつた。夏の始めだつた。夜中に起こされた、僕の子供の心は、ヒドクおびえてゐた。母の泣き樣がおそろしかつた。母の泣く聲が、靜かな夜中に、一入はげしく聞えた。母はヒキツケてゐる赤ん坊に向つて、どうしてこんなになつたのだ。と云つて泣いた。あまり泣くので、その言葉が切れ切れにきこえた。

醫者の家に誰れかが行つた。醫者が來た。そして注射する器械を組みたてゝゐた器械が光つてゐた。注射すると、赤ん坊は生きかへつた。これで一先づ助かつた。また明日になつてどうなるかしれないけれど、今夜は、一先づ皆寢るより仕方がないと父が云つた。僕は寢た。その晩のことは憶えてゐる。

赤ん坊の病氣がヒドクなつた。大阪から醫者をしてゐる伯父が來た。親類の者もその他に來た。醫者も二三人來た。母は赤ん坊につききりだつた。母はよく泣いた。母までが病氣の樣だつた。赤ん坊を抱いて、母がすゝり上げて、こみ上げて來る悲しさに、むせび乍ら泣いてゐる姿は思ひ出す。母はまだ若かつた。赤ん坊は幾度もひきつけた。澤山の人が家の中にゐた。臺所の方も忙し相だつた。家の中に澤山人がゐるので僕は喜んでゐた。忙しい人の中をチヨコ〳〵あちらに行つたり、こちらに行つたりしてゐた。いつの間にか夏は盛りになつてゐた。

ある時、僕は何處かで遊んでゐて、一寸赤ん坊の病室に這入つて行つた。暑い日だつた。空氣をしめらす爲めに、湯をいれた金だらひが火にかけてあつた。赤ん坊が部屋の眞中にねてゐた。頭を高くするために白い大きな枕がおいてあつた。そのためで赤ん坊の顏はよく見えた。白い着物を着た人や、皆がゐた。赤ん坊のまわりに氷嚢もおいてあつた。そし

て吸入器が三つ置いてあつた。そして三つの吸入器が一度に、赤ん坊を三方から、包圍して、シユウシユウと云つて湯氣をはいてゐた。寢てゐても起きてゐても、泣いてもかまわずに吸入器をかけづめに、かけてゐた。湯氣がもう〳〵とたちのぼつてゐた。頭も顏も着物も、何も彼も一めんに吸入の蒸氣の露がたれてゐた。湯氣の中で、赤んぼの人形の聲の樣な啼き聲がしてゐた。そして湯氣の中で頭が少しづゝ動いてゐるのが見えた。僕は立つてゐて、赤ん坊を見てゐた。その時誰れだつたか忘れたが女の人が、「赤ちやんは大人でせう。吸入をちつとも、いやだとおつしやいませんよ」僕は有名な吸入嫌だつたと云つた。僕は心の底から、いや寧ろ僕の體全體で、赤ん坊を可愛相だと思つた。そして、その時、軍艦の玩具を買つて貰ふのを、母にねだることを、よす決心をした。それはよく憶えてゐる。それはかうなのだ。僕の誕生日は八月二日だ。そして誕生日にはキツト何かお祝に買つて貰ふことになつてゐた。誕生日には何でもねだる權利があるのだと考へてゐた。その時僕は軍艦の玩具を買つて貰ふことにキメてゐた。それはもう前から母と約束してあつた。そして、その時八月二日は迫つてゐた。永い間樂しんでゐた。しかし、その時、赤ん坊を見て、ふと、すまない氣もちがしたのだ。今それを云ふべきことでないと決心したのだ。氣にはかゝつてゐた。しかしたうたう、玩具を買つて貰はなかつた。

赤んぼの熱が高いと云ふことも聞いた。また。あまり氷で冷やしすぎて、つめたくなつたと云ふことも聞いた。カラシ湯をつかわせた話も、注射した話も聞いた。もう、だめなのだと人々は云つてゐたと思ふ。母はよく泣いた。皆が代り合つて徹夜した。ある朝、伯父が――その時伯父が看護してゐたらしかつた――大きな聲で、赤ん坊が死んだと云つてゐた。涼しい寒むい樣な朝だつた。誰れかゞ、その時、部屋の中を掃いてゐた。ホーキがサツサ、と音をたてゝゐたのを、何故だか僕はおぼえてゐる。

葬式があつた。火葬場に骨をひろいに、車に乘て行つた。それも朝だつた。その他のことは皆忘れた。

その後、久しく、母は泣いてゐた。赤ん坊の着物を出しては泣いてゐる所を、僕はよく見た。そしてどうしてあんなに泣くのかしらと思つてゐた。そして、いつか、それらは何處か見えない所にしまつてしまはれた。その中に羽二重の赤いよだれかけと袖の長い、チリメンの着物があつた。それには孔雀の羽の模樣が一めんについてゐた。

いつの間にか、母は泣かなくなつた。しかし妹の話をすると泣いた。

妹のことを其後誰れも語らなくなつた。その當分どうしてあんなに母は泣けたのだらうと思ふ。それから十七年たつてゐるのだ。

妹が生きてゐたらいゝと思ふ。今十七だつたのだ。しかしそれは想像してみる丈けなのだ。妹は大きくなつた所は、考へてみようと思つても考へてみられない。大きくなつた妹と云ふものは、どだい、運命に考へてはおかれなかつたのだから。唯、大きくなるべきものであつたのだと思ふ。そして、若し妹が生きてゐたとしたら、少しまぬけで、内氣で、おとなしい、しかしやさしい奴だつたのではないかと云ふ氣がするのだ。

あまりに簡單に忘れられた。そして妹は苦しみに生まれたものゝ樣に僕には思はれることがある。可愛さうだ。それを思ふと可愛さうだ。

しかし、もう、それは思ふまい。

寫眞を見ると、死ぬ奴は始めから、死さうな顏をしてゐる氣がする。眼の据え所が、何處か違ふ樣な氣がする。しつかりした、手應へのある眼つきではない。その代りまた、自分達の知らない、自然の神秘を知つて居る樣にも思はれる。

何にも此世のことを知らないで、死んだのは、却つてよかつたのかもしれない。無垢で死んだ。妹の死んだのこそ、本當に「歸つて行つたのだ」と云ふ氣がする。死ねば同じだ。死んだものから云へば、

却つてこちらが氣の毒なのかもしれない。

しかし、僕は、どうしても、とりかへしのつかない氣がする。生きてゐてくれゝばと思ふ。今、十七だと思ふ。此の世には見せたいものも多い。本當に生々した處や、歡喜がある。僕は妹を喜ばせてやることが出來た氣がする。いろいろのことを教へてやることも出來たのにと思ふ。

さう思つてもおつつかないと思ふと、とりかへしがつかない氣がする。（一九一七、九、四、福岡ニテ）

今度會員諸姉の爲本會にて（一月より三月迄に於て）開催致し度き諸集會の時間表相作り申候間其都度御通知申上げず候へども是に從ひ御來會被下度御案内申上候。

一月

廿日（日）午後二時　讃美禮拜

廿五日（金）午後五時卅分　英語社交會

二月

二日（土）午後二時　親睦會

九日（土）午後七時　女中慰勞會

十七日（日）午後二時　讃美禮拜

廿三日（土）午後二時　講演會

三月

九日（土）午後二時　親睦會

廿四日（日）午後二時　復活祭禮拜　實際は卅一日（日）なれども都合に依り一週間繰上げたり

東京基督教女子青年會

彙報

東京青年會　一月三日より十日迄、松宮彌平氏擔當にて日語教授法講習會を當館にて開かる來會者廿一名。有益なる會なりき。

一月十二日。午後二時より婦人傳道會社の新年集會を當館に開かる。加藤姉司會のもとに讃美歌、聖書朗讀、祈禱等ありて長尾半平氏の御講演世界の大勢（本文に掲載あり）次で河井道子姉の支那旅行に於ける御感話及奨勵ありき。來會者約百七十名。

一月十九日。午後二時より聖書の組織員生徒の懇談會を開く。渡邊百合子姉司會にて河井道子姉の聖書を研究するの必要につき有益なる講話ありて一先會を閉づ。其より十一組を代表せる約七十名の生徒は、一家族の如く打まじりて二三の遊戯をなし、茶菓を共にし散會す。

一月十九日。午後二時より讃美禮拜を開く。大江壽美子姉の三方主義の御講話には皆感服せる面持なりき、此日安藤坂寄宿生の特に奔走されしは感謝の至なり。

横濱女子青年會　既報の如く幹事ミスベーカーは、十一月十七日米國から、お歸りなさいました、其翌日は幸日曜日で御座いましたので同幹事の舊友二十五六名を御招待して歡迎會兼茶話會を催し宗教的な會合の後、ミス、ベーカーより米國で見聞された珍らしい御話を伺ひ樂しい半日を過しました。横濱は貿易港だけに商館が澤山ございます。從つて諸商館に御務めの御婦人方も本會々員中に數多くございますので、日中來館されない方々の便宜と親睦とを計り、本會では、隔週水曜日午後六時より「ビズネスガールスミーティング」を組織いたしして、横濱共立神學校の城戸先生に、三十分間の聖

書の講義を御願致し後て、直に會食會に移る事に致して居ります。出席平均數は十二三名でございますが、珍らしい樂しい御話しを交しながら、食事致すも之又樂しみの一と數へられねばなりません。十一月二十三日、横濱記念會館で横濱家庭製作品奬勵會主催のバザーがございましたのを、幸本會では十月十七日の本會主催バザーの殘品、小間物店と、コーヒー店とを出しまして、兩店合せて金六十五圓餘の收入を得ました。此頃日本に避難するロシャ人が横濱に澤山見受けらるゝやうになりましたが、彼等の過半は衣食住に不自由を感じて居るあはれな人々で御座いますので、本會のミセスフォレスタア御指導の許に支那人會の婦女子は毎水曜午後を定めて、本會館で彼等の爲に着物を縫って居られます。十二月十二日午後七時より、總會が開かれました、役員及常務委員の選擧がございましたが、其結果は次回に御報告申上ます。十二月廿四日午後六時より本會の日曜學校クリスマス祝賀會を催しました、生徒は略五十名程で同夜七時から會員祝賀會がありましたので、本會諸姉は日曜學校生徒の無邪氣の祝賀會を御見物がてら早くから御來館になりましたので、小供等の會も一層活氣付きました、開館以來クリスマスらしい祝賀會は今回が初めてで御座いますが、面白く樂しく遊ぶ中にお互に知らず識らず親しみを增す事が出來ましたのを嬉しく存じました大正七年一月十日午後二時、當會館で新年第一回の委員會を開きました、相談の重なるものは來二月四日市中の婦人方に廣く入場券を配布して、最近歐米諸國の婦人の活動振を見聞された婦人數名の方に、數分間づゝの御話を願ふ事に致し、當市の諸姉にも會を紹介する事、其他は本會の副會長ミセスペーンが指導者となられて會員が今一層時間を(戰爭の爲)救濟事業に捧ぐる事。

福岡英和女學校　初めて生れ出ました我青年會は未だ赤ん坊でございますが神樣のくすしき御惠と、本部の皆々樣の御引立と、御親切なお祈りによりまして、成長の步を進めて居ります。先日は河井先生が御來校下さいまして二三度有益なる御話を承り先生方初め私共一同誠に嬉しく感謝に滿されました。皆青年會の必要を感じ何かして御奉仕致し度いと決心致しました。御存じの通り九州にては女子青年會の設立は嚆矢で御座いますので、未だ〳〵幼稚で之から一同大に活動致しませうと準備致して居ります。資金が未だ何もございませんので、販賣部の方も又は內職の方も校庭の一部に園藝を初める事等も手筈をして居ります。新嘗祭に初めての感謝祭を致しました。毎金曜日全會員集つて祈會を致して居ります。小さい乍らもこれから協同致しまして進步致します、誠に有望でございますから、愈々此上共御指導下さいます樣お願致します。

宮城女學校女子青年會　毎水曜日の禮拜は、特に青年會の祈禱會をして會員が其司會の任に當り、有志の者の感話、祈禱、或は聖書朗讀、讃美等に暫しの聖き時を持つのでございます。委員會は屢々開きまして、會の爲めに祈り、又種々働き等に就き相談致します。近頃は毎金曜日の放課後、又は土曜日の午後等有志者が校舍の一室に集り、常々も勉強の餘暇を出來るだけ多く會の働きの爲め用ひまして、小さいながらも努力して居ります。種々の編物、不川の布にて雜布をさす事又は寄宿生に便宜をはかる事等を努め、其得たる收入を或は日曜學校の爲め、或は貧しき人々を慰むる爲めの費の一端共致し悅樂しむで働いて居ります。雜誌「女子青年界」の愛讀者が次第に校內に增して參ります事も、私共の喜ぶ所でございます。何卒當支部の爲め又私共不束かな委員及會員等のより多く努めて御

榮が顯はす事の出來ます樣、愛姉方のお祈りのはしにお數へ頂き度御願致します。

捜眞女學校女子青年會

當青年會員お蔭樣にて微々たるもの乍ら神の御保護の元に會の發展の爲め、委員一同努力致し居り候本會は五部に分れ各自の働きは左の如くに御座候。

財政部、會員全體にて數回働き、廢物利用にて手提袋、ハンケチ、袖、前掛等を造り、販賣致し、七圓餘を得申候、夏休みの仕事として會員全體各々雜布二枚とハンケチ二枚とを造り申候。

傳道部、學校内の未信者の爲め力を盡し居り申候、木曜日午後の一時間を利用致し各級に或は、全體に對し、事務員が司會をし集會を催し候。

第一學期、特別集會として、前學期中にバプテスマを受けられし姉妹等が、各々惠の證をなし、主を求めざる姉妹等に惠を與へ申候第二學期、共勵部と聯合し生徒全體を正會員、準會員、非會員の三部に分ち事務員是を指導し、惠まれし集會を相催し候。十一月十五日共勵部と聯合にて、四谷教會牧師渡邊元氏を聘し、神の御國擴張に關し御講演を願申候。

共勵部、會員信仰進歩の爲め努力し居候、特別集會を一學期に二回位催し、外に日曜の夜分に寄宿生を集め、祈禱會或は惠の證を致候。

慰藉部、病院に送るアルバムの製作を致し、七十冊完成、近々中に病院に送る手筈に相成居り候。暴風雨に際し、附近の被害者に、少々乍ら金子分配致候。

誘道部、受洗者十六名有之、入會者は正會員十四名、準會員一名に御座候。

本部、九月初めにスミス大學卒業生の發起にかゝる、フランスの子女慰問の爲め、會員協力して、慰問袋五打、繪葉書カード二ト打餘、盆敷五打、編物類二十一個、玩具二百五十個、其他種々、價格三十六圓餘を發送致し候。今回横濱市にて、婦人等の發起に成る、家庭製作品奬勵會バザーに於て、ピーナッツ賣店を開き賣上約廿七圓に達し候、又我バプテスト派にて五年間に渡る擴張運動の開始に際し青年會にても助力に力を盡し、十七の祈禱隊を組織し神の聖靈の降る樣祈り居り候。世の暗に迷ふ人々を思ふ時は益々青年會が世の光と成りて指導する責任を思ひ、一層の努力の必要を感じ居り候。

同志社女學校青年會

專門三年より普通科一年までございますので、格別の才能の差異にて思想も異ひますので、題目感話に苦心の末にもすべての人に興味深くして、有益な充分に滿足與へらるべき集會を有するむづかしく、眞に心の畑に培ふべき種蒔く事も出來ませんので、終に今學期より思想の若い赤りボンを飛ばして、無邪氣に遊ぶ可愛い一二年生は分會して少女の部を造りました。今まで上級の方ばかりに働いて載き、別に御手傳も致さなかつた少女の部(十八人ばかり)の會員自分の會も出來、今から大いに働かせていたゞく機會を與へられたと、踊らばかりよろこび勇み感謝にあふれ互に手となり足となり報告紙も書きまわらぬ口で、友にも知らせ祈りつゝ小さい會を始めました。少女の部發會式とも申すべき會には眞心のあらはれ、努力の結果として多くの人はうれしさうな顔して集り來り、誠に力ある可愛いしかし眞面目な活氣ある會をもち、其時島原先生(宮川)ば青年會でやさしく、心にしみわたる樣に御話し下さいましたので一同は肝に銘じ、滿足して今後の働に神に御導きあらん事を祈つて別れました。

人の心の畑に蒔かれし種は生えずに居られぬもので、尊き働きには強き神の引力常に働き給ふもので、萬國祈禱集後十日餘りの中に會員は三十二人にもふえすべてが靈にみたされ、希望に輝き各々よろこんで出來るだけの事致して居ります。すべてに於て智識を望で居るこの時代に御書を學ばんと、小さい頭をひねつて五十人餘りのもの己々進で研究し少女の部で、聖書研究會を致して居ります。共に眞理の一兵卒として誘惑に克ち、俗に溺れず死に至るまで忠信に意を決して行ふべきを行ひ、共に理想の光明を指してまつしぐらに進み行かんと、先づ己を修養し足らずも細腕を振つて活動致さんと小さい胸には紅の熱血も漲つて居ります、機を失せず一寸の事も源として働かんとすべてを注意して見て居ります、神様の攝理は流石に温いもので次から次に仕事を御與へ下さいますから心よりよろこんで居ります。先生少女の部に適した働きがございますならば御教へ下さいませ、何か御用をいたさんとかわけるごとく義をしたつて居ます。

過日青年會を開催し廣岡淺子女史に御講演願ひました時私等の師とも親ともいつきまつる河井道子先生の御姿を拜し一同心躍りたち喜びあふれ、先生の力ある御教を承らんと腕にぎり心を開いて一口の御言葉なりともと希望をみなぎらして居りました。私等の熱心がたりなかつたのでせうか、先生は御多忙の事とてたゞ凛として其お姿のみ致して御歸りになりました。私等は太陽の前の燈の如く失望して熱心のたりなかつた事を悔ひまたおとづれ給ふ日を切に願つて居ります。支部から御歸り道に西の都にまち望んで居る、私等の事御察し下さいましてしばしの時を御分から下さらん事切に御願ひ致します。少女の部は始めて出來た事故、親しく先生よりいろ〳〵伺はんと山なす思持つてたのしんで居つたのです。次に御出下さる時を千秋の思もて御待ち申して居ります、何卒小さき赤き心を御くみ取り下さいまして是非〳〵いらして下さいませ、世界につらなる聖き會の上に、其のため一身を外に御盡力下されつゝある敬愛する先生等に殊に神様の御惠ゆたかならん事祈りつゝ。

プール女學校女子青年會

女子青年會の各員は新築の校舎へ移轉のため多忙なる先學期を終へ、其上に喜ばしき御聖誕の休暇を迎へ候まゝ、御心易う思召給はり度。扨て例の御送り屆け申すべき萬國女子青年會本部の負擔金、本年は殊の外延引致し候へども四圓六十四錢爲替にて封入致候まゝ、よしなに御取斗らひ給はり度、平に御願ひ申上候。尚御働き並に諸所の女子青年會の上に、いやまし御祝福の添はせらるゝ樣祈上候。

(以上は一月號の掲載の筈なりしも紙數の都合にて本月に延ばし候事御免し下され度候　編輯係)

友垣

在米　大谷久子

皆樣如何遊ばされ候や定めし例の如くお忙しき事と存候、私事お蔭樣にて、誠に丈夫に毎日テク〳〵と大學通ひ致し居り候、昨今急にお寒く相成り昨日と今日は雪さへ降り申候、私は公園を横切て大學に參り候も、毎日の行歸りに凍え申候、今日はハロインパーテーありアイスクリームスケークにて大悦び致候、アイスクリームは私共の第一に悦び候もの先日はバスケットボールのマッチあり當校勝候間、第一第二テームに校長アイスクリームをごられ大喜び致候

其代り毎日二度宛テームプラックテスあり、氷の張つた板張りのバスケットボールコートにて滑り乍ら練習致居り候、來週はマッチある筈にて候。只今二階にて唯ならぬ物音、何かと存じ候へば誰かのいたづらにて球室のベッドの上の物殘らず、何所かへ隠し候由大騒ぎにて候　昨今水戰大はやりにて毎日ぬれた話のみ聞かれ申候。一生徒の話に私のベッドにいたづらあるよしにて、只今三階迄昇り候處へベッドの上にお砂糖を置き、水のゆたんぽを入れあり候。消燈のベル鳴り候も數分の内に候間今夜は之にて筆止め候。

今夜は引續き大騒ぎにて七人程シーツにて幽靈に成り、室々を訪問致し候が、覇を來し、校長に叱られるやら大騒ぎにて候ひき。今日も引續き大雪降りにて候も、朝バスケットボールを致し候。（十一月一日通信）

○

岡山　山根妙子

大正六年八月末から十月迄主人山根の消息不明で地中海の事とて心配致しました處御恵に依り無事に歸朝致しました。外國船（伊太利）なれば代理店に問合せても責任ある返事をしてくれませんし、一時は全く途方にくれました只在まさゞる所なき神の御手にすがる丈で御座いました、往航の時

シナイ山巓に雲わく所
ゆくて安きを神に祈れよ

と腰折れを手紙に書いた事も御座いました。自分の悲しみを忘れるの他の人の爲めにつくす事であるとは、兼て先生方から承つて居りますので日曜學校を教へるのにも前より眞面目に調べて行く様になり、神様に増々近づき得る様で御座いましたそしてクリスチャンである幸福を感じました、それなのに無事に歸りましたら物質的にかたむいて來る様な氣もして神様とはなれるかと心配致します「おそれ戰きて己の救を全ふすべし」と云ふ聖言を言ひ出して、絶えずはなれない様にお祈りせねばならないと存じます。當校女教員の間にバイブル研究者も五六御座いまして、佐々木様や今井様や私の宅などで交る〳〵司會者となり、毎週又は隔週に一度川俣牧師に來ていたゞきます、五六人と申しましても私共三人を入れて五六人で御座います。

○

米國　井出菊枝

井出菊枝私の勉學して居ります學校はボストンを西に距る十八哩いと靜かな愛すべき小都の一隅に位して居ります、見渡す限り緑樹の高地で默示と學生の活動地としては誠に好適地で御座います、校友九十餘と聞いて居りますが何でも澤山でして、私如き者には皆様が同じ方の様でまだ〳〵眼のあかない赤ちやんの様で御座います。それでミス、ヒスコックスに此の事を話しました、私は一體が臆病で心に思つて居る事を口に出來ないもので御座いますから、これ丈の事を云ふにも隨分考へましたが、最後に「あゝ將來主の爲青年會學校に對して」と云ふ最大なる美しい刺戟に動かされて、何でも冷性に理に訴へて最善の道をえらんで、後に心身をそれに集注するが必要だと意を決してお話致しました、すると先生の曰く、近日ウエルスレーに手紙を書いて上げながらしばらく待つ様にと申されました、それ故私は一生懸命に心の中で祈つて居ります、猶聖書と併せて七課目就中代數幾何化學等は、大學用の本とかにて而も只今英語で修得しました者は歷史と文學の概略に過ぎず、從つて當校に於ては生徒の殆と全班は二ケ年を以て準備を終へる様致し居る位で御座います。當校には青年會が御座います、本會は來る木曜日のよしに

て非常に興味深く時の到來を待つて居ります、かつてトロントに着きました時に當時當市に開催中なる博覽會にゆく人多く、着以前車中は誠に混雜致して居りました外の混雜よりも見知らぬ土地、しかも大都市の乘込へ廻を如何に行くべき、もし迎への人の來て居られない時は私の心の混雜一方ならじと、心優しいカナダの御婦人方がしきりに心配もし何なら私の住居へとまで云つて下さつたとか、肝心な私が平氣水泡鐵もそしらぬ顔の蛙の樣で御座いましたと云ふのは何時ぞや、河井先生が青年會事業についてのお話の中に大都市には旅行者の友と云ふ設けありと承り、よく覺えて居りましたのでニコ〳〵して下車しますと眞先に青年會の一員が來られて、とやかくと御親切にお世話下されました、斯くして到る處に喜と感謝とを經驗いたしました。

○

臺中　島田はつ

當地は氣候誠によろしく幸福でありますが所が、不便にて一里餘の處より毎日苦力が運び參ります井戸は、二ケ所に底の見えぬ程深いものを掘りましたがよく出ませんので皆困つて居ります、人數は内地人十數名にて夫婦者は三軒で到つて仲よく平和でございます、宗教の方も知り度いと望み居らるゝ方々が夜、私共の家に來られますと實行的基督教或は聖書を讀み讃美歌を共に唱ひなどして居ります、九月半頃から主人は北部と南部に二十日限り出張致しましたので、私も臺中に參り女子學院同窓生にて北海道の北星女學校を數年教へて居られし方が、目下臺中廳技師の夫人にて殊に御主人には島田氏も前から親しく御世話になり居ります故、其お宅にしばらくお世話になり色々のお手傳をいたし尚又　松岡氏宅を初め色々お世話に預りし方々を訪問いたし、十月十日頃歸宅致しました女子青年界を毎度拜見致し、數々の美しき有益なる御事業を遊ばされます、事を心から嬉しく存じ上、是非少々なりとも眞心を御送り申上度と願ひながら失禮申上て居りました、只今此處に金子僅ながら封入致しますから何か御用のはしにお加へ下されますならば、此上もなき幸と存じます何卒御受納遊ばして下されます樣お願ひ申上ます。

○

紐育　益富政助

赤毛布の江戸見物と云ふ姿で米國に參りましたが大層益する處が多いのです、女子青年會の事業につきましても爰に來てから……と申てはすみませんが、實際米國のを見まして今更の樣に其必要と共に將來の希望の豐かなる事を感じました種々お骨折なお願ひ申ます、女子學院の卒業で三浦しげる女史と申す方にマウントホリオークで會ひました女工の爲に將來働き度と思つて居るとかお話でしたから私は精々其積りで勉強なさるやうに勸めておきます、而して女子青年會に屬して女子青年會の事業としてその希望を實行するがよろしかるべき事を勸めておきました。私は佛蘭西に(戰場に)參ります。

○

沖繩　大森端子

(前略)此所では未だ袷に襦袢でお天氣の日等ポー〵ツと致します草木は青々として空の色にまるで秋の牛の樣に澄きつて居ります。これでは師走の氣分等少しも出ません、樂は樂ですけれ共寒さは矢張りストーブを眞赤に燃いて、共所でいろ〳〵お話したり物を食べたりするのも嬉しうございます。尚目を瞑まして遙かに寄する波の音を聞きながら上弦の月を眺める時、そして東京とは星の位置等まるで異つて居る、空を見上る時つく〴〵遠方へ來たと思ひます。もう當地にも大分慣れて參りました、不思議なもので言葉等初めはちつとも解りませんでしたが、此頃は大概の事は理解が出來る樣に成

りました。一寸面白いのをお聞かせ致しませう、ニヘーデビル（ありがたう）女中の事を（パッチ）、アンマ（女）、マナ（猫）、ツラ（顔）ムライ（美しい）、キガワ（井戸）、チョー（今日）イツペーマコト（正直）カツチンザベメン（御馳走様）、サウテン（少し）、まだ〳〵面白いのがありますが一寸思ひ出ませんから、おかしいのは人の名前で男はまるで華族様の様な名をつけてゐます、女は臺所の名をつけてゐます、女は臺所道具が貰い物として名前は、かまど、つる、なべがあります、此地には「うし」と云ふ名が大變あります、私の家へ毎日水くみや掃除に來るパッチは「うし」といふ名です、此所では女が大變よく働く所で、牛肉賣の他は魚屋も八百屋も皆女です、而してそれを皆頭に載せて歩くのですから、髪はぐる〳〵おばこの様にして銀かアルミか木の五寸針のやうな簪一本、それきり。而して素足で色は赤銅色、頭へ物を載せるせいか其重心を取るためでせう面白い形ですミセスは兩手に丸だの三角だの棒だのゝ刺青がしてあります。男の方はそんなに内地と變りませんが丈の高いのが餘り無い様です。毎日取町はづれに市場が立ちます、其所には魚肉、野菜、乾物を初め日用品何でも女が大きな傘を擴げて其下であぐらをかいて賣つて居ます。賣物は何でも倍以上かけ價を云ふので、其れを値切るのが中々大變です。どうして中々氣が強くて、こちらで買つたものでも其價にまけ度くないものですと、どん〳〵引たくつて終ひます、實に其光景は見た人でなければ解りません。土地は何しろ石灰の様ですから野菜物等ちつとも出來ません、芋と砂糖の木が少し田舎へゆくと見返す限り作つてありますけれ共、お芋はまるで、馬鈴薯と薩摩芋の合の子の様でまづくて食べられません、今あるのは菜に細いねぎ、茄、瓜ごぼう位な物で、玉葱や、馬鈴薯は御地から來たのを買ひます、お魚は深山ありますが、價は東京と同じ位で只新らしいのお取り得です、一番おいしいのは何と云つても豚です、どうして内地ではとても〳〵食べられません、一斤四十錢ですが、何所でも好きな所が買へます、脂肪等少しもない良い身ですとごく佳味うございます。

此所の人は未だ教育も充分でない故か、道徳觀念衞生思想等はゼロです、實に〳〵約束をホゴにする等は平氣です、中流以下の家はまるで豚小屋の様です。而して感情家で理性がなく、相當に教育のある男でも、すぐメソ〳〵泣くそうですから、女ときては、全くお葬式の時はワイ〳〵泣きながら通ります。こゝには乞食は居りせんが（最も人の畑をはつて食べても命はつなげますが）氣狂が大變多いそうです。食物等は一寸前迄は一人が四錢あれば一日食べたと申ます宗教の事は先日此國の人に聞きましたら佛教も神教もキリスト教も相應に一生懸命やつて居るそうですが、例の感情で一時は熱してもすぐ冷めて終うのゝ教育のないのとで、どれも〳〵盛んと云ふ所迄行かぬそうです、でもキリスト教は割合に盛んで神縄の牧師が神縄語で話したりして居ます。此間木村術松さんがお出に成つて三百人信者が出來た相で大變よろこむでお出でゝした。主人の出て居ります師範學校で南洋のお話をなされたそうです。（以下略す）

消息

○ミスマシウ　本部幹事ミスマシウは去月廿二日夜行にて大阪青年會に行かる。二月上旬迄滯在。

○有田玉子　東京神川青年會寄宿舍々監たりし同姉は先月辭職さる

○比嘉秀子　高等師範出身の同姉は有田姉の後任として就職。

○黑田治子　前橋共愛女學校敎師たりし同姉は今春職を辭され横濱青年會幹事として四月頃就職の筈。

○志立タキ子　時々女學生を茶話會に招かれしが一月末には支那女學生を招かれたり。

○大江壽美子　去月廿日寄宿生の爲東京女子青年會館にて講話さる

○小池常惠子　女子大學に敎鞭を執られし同姉は昨年十二月二十八日竹原常太氏と結婚され、兵庫縣武庫郡西灘村原田三二四に居住さる。

○澤口ツヤ子　中原氏と結婚され一月十四日サイベリヤ號にて渡米さる。

○寺内ぶん子　名古屋高等女學校を辭職され。郷里栃木縣足利郡寄村に居住さる。

○水原延子　轉居朝鮮京城古市町三十一

○内田賤子　轉居、東京府下池上岩谷別莊

○葛山壽代子　昨年森本氏と結婚。

○寄附會友會費雜誌代及び萬國祈禱週負擔金領收報告（本部）

○寄附金

○金　拾　圓　也　多木有機子
○金　參　圓　也　島田はつ子
○金　五　圓　也　ミス、クロフオード
○金　拾　圓　也　女子學院（本部事業負擔金）
○金八拾參圓也　傳道會社
○金壹千圓也　志立　鐵郎
○金　五　圓　也　横濱女子青年會（本部事業負擔金）
○金貳拾圓也　杉山みち子
○金　壹　圓　也　上野とし子
○金　貳　圓　也　外山信子
○金　五　圓　也　鈴木様

○會費

○金　壹　圓　也
野副　とよ（大正七ノ一―七ノ十二）小原　すゑ（大正六ノ十二―七ノ十一）
岩崎　とも（大正七ノ二―八ノ二）坂部　くに（大正六ノ四―七ノ三）
松岡　こと（大正七ノ一―七ノ十二）中野　やす（大正六ノ四―七ノ三）
澤田　みや（大正六ノ十一―七ノ十）手束　しづ（大正七ノ四―八ノ三）
疋田　たつ（大正五ノ四―六ノ四）高田　常代（大正六ノ十―七ノ十一）
高橋　久與（大正六ノ十二―七ノ十一）小畑　和子（大正七ノ二―八ノ一、
宮崎　貞子（大正六ノ八―七ノ七）
○金　貳　圓　也　三吉　春
○金　四　圓　也　新潟女學校
○金壹圓貳拾錢也　河本　かめ
○金　參　圓　也　丸茂　よし
○金參圓拾貳錢也　横濱女子青年會

○雜誌代

○金　八　拾　錢
木間　みね（大正六ノ十二―七ノ十一）片岡　京（大正六ノ六―七ノ五）
岡　横　秀（大正七ノ二―八ノ一）小野　晶雄（大正六ノ九―七ノ三）
新　み　ね（大正六ノ十―七ノ九）野口　幽香（大正七ノ一―七ノ十二）

渡邊　とよ(大正六ノ十一―七ノ九)川上　ちゑ(大正六ノ十一―七ノ九、
今井　光子(大正七ノ一―七ノ十二)永田　まち(大正七ノ一―七ノ十二)
○金壹圓六拾錢也　女子學院(大正六、七年度分)
○金貳拾壹圓九拾錢也　共立女學校(大正六ノ一―七ノ十二)
○金貳圓五拾六錢也　副島民―廣島女學校(大正六年十一月分
　三十二部代)○金貳圓五拾錢也(大正五ノ一―七ノ十二)
○金壹圓六拾錢也　横濱女子青年會(大正六ノ九―七ノ八)―二部代
○金拾四圓四拾錢也　安部貞世(大正七ノ一―七ノ六)―三十部代
○金八拾八錢也　久村義子(大正六ノ十一―七ノ十二)
○金壹圓八拾錢也　遺愛女學校(大正六ノ十一―七ノ一〇)二部

○萬國祈禱週負擔金

○金八圓貳拾錢也　横濱女子青年會
○金六圓十二錢也　廣島女學校女子青年會
○金貳圓八拾四錢也　福岡女學校女子青年會
○金壹圓貳拾錢也　梅花幼稚園女子青年會
○金四圓九拾貳錢也　青山女學院女子青年會
○金壹圓七拾錢也　東洋英和女學校青年會
○金壹圓參拾錢也　遺愛女學校女子青年會
○金九圓也　尙絅女學校女子青年會
○金五圓也　東京女子青年會
○金七圓也　ウキルミナ女學校青年會
○金三圓參拾六錢也　捜眞女學校女子青年會
○金壹圓七拾貳錢也　フエリス女學校青年會
○金貳圓參拾貳錢也　靜岡女學校女子青年會
○金壹圓參拾錢也　札幌女子青年會
○金七拾貳錢也　女子學院青年會
○金四圓九拾貳錢也　女子英學塾女子青年會
○金四圓六拾錢也　プール女學校女子青年會
○金七圓也　尙絅女學校
○金五圓八拾錢也　宮城女學校女子青年會
○金八拾錢也　盛岡女子青年會
○金參圓貳拾四錢也　弘前女學校女子青年會
○金三圓〇六錢也　神戸女學院女子青年會
○金八拾錢也　上野とし子

電話と振替

東京市神田區北神保町十四番地
日本基督教女子青年會本部
電話本局五九八番
振替東京貳參七貳參番

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵税

	内地	海外
一部	金八錢	金拾壹錢
一年前金	八拾錢	金壹圓貳拾錢

廣告料

一回掲載	
一行　金五拾錢	四分一頁　金五圓
半頁　九圓	全頁　金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正七年一月廿八日印刷納本
大正七年二月一日發行
發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督教女子青年會
發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地　河井道子
印刷人　芝區櫻田和泉町七番地　前川吉次郎
印刷所　芝區櫻田和泉町七番地　三成舍

同志社女學校 生徒募集

●專門學部（英文科三年同豫科一年家政科三年）

●普通學部（五ヶ年高等女學校程度）

●尋常小學校卒業生ハ一年ニ入學ヲ許ス●入學申込期限四月八日限り

（規則入用ハ郵券貳錢ヲ要ス）

京都市上京區　同志社女學校

西洋料理講習會

時日　自二月一日至四月五日　毎週金曜日一回　自午前九時十五分至正午十二時　拾回完了

デナー（晩餐）調理法

スープ二種、肉及野菜數種、魚及肉類、サラダ、デザート類茶、コーヒー等毎回順を追うて教授し、最終日には實習せし品目を悉く調理して一の晩餐會を開く。毎回調理法と共に西洋食禮法をも講習す。

本會にては講習生各自手を下して實習する便宜なる設備あり。

申込期日　一月二十九日迄

講費及材費　金拾圓　本事務所へ御拂込みありたし。

事務所　神田區北神保町十四番地（電話本局五九八）

東京基督教女子青年會

私立女子學院

本科五ヶ年

補修科二ヶ年

宿舍の設けありて懇切に監督す

麴町區上二番町三十三（四）番地

私立女子學院

November.

2. Missionary Meeting.

4. Our Private Life. Math 6 : 6; Luke 11 : 1-3. ... T. Takahashi.

13. Heroes of Foreign Missions: What they teach us. 2Cor. 11 : 21-28. ... A. Yamaoka

18. The Power of Personal Influence. John 1 : 35-39. Miss G. H. Stowe

27. Preparing for our Heavenly Home. Phil 3 : 20-21; Heb. 11 : 8, 10, 13, 16. ... K. Tanaka

December:

2. Prayer for Missions at Home and Abroad. 1 Tim. 2 : 1-8. ... Miss Fujii

11. The Building of Character. 2 Pet. 1 : 1-11; Jude 20 : 21. ... M. Okumura

16. The Abundant Life: How get it? How use it? John 10 : 7-10; Rom. 5 : 19-21. ... Dean T. Kimura

Miss Ethel Fonda, our new physical director, has begun her classes and the students are very much interested in making gymnasium uniforms out of old Japanese kimonos. Miss Fonda's geninus in designing a suitable suit is very much appreciated by her girls. The classes both in Tokyo and Yokohama are very promising.

We are very happy to welcome Mrs. Imanishi back to Tokyo. Her year's stay in New York and her acquaintance with our association people there will strengthen our organization.

YOKOHAMA.

Mrs. Murohara, the President of the Yokohama Association has given birth to a son. We hope she will soon be out to add her strength to our committee.

Miss Haru Kuroda, a graduate of Kobe College, who has been teaching in a Christian school in Maebashi for the past ten years is going to become our General Secretary in April. A warm welcome awaits her.

A series of social gatherings have been planned to be held in the building in connection with the Bible Study Campaign. The first of these will take place on February 4. Miss Hitotsuyanagi, who has just returned from America, and Mrs. Imanishi and others will speak.

Mrs. Payne, our Vice Chairman, is investigating the American and Japanese Red Cross to learn how these two societies can best cooperate, and will recommend some specific way in which the association can help the Red Cross.

We are very much pleased to welcome Miss Mendelsohn on our Committee. We fell she has a large contiibution to make to our work.

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

VOLUME XV FEBRUARY. 1918 NUMBER 2

The National Committee feels most grateful to Mr. Tetsuro Shidachi for his generous contribution of Yen 1.000 to the endowment fund now being raised for the national work. Mrs. Shidachi's untiring interest in the whole association movement is the constant inspiration of both the committee members and secretaries.

Miss Matthew left Tokyo on January 23rd for Osaka After visiting the association there she will go to Kobe and Kyoto, where we hope to begin regular association work in the very near future.

On Miss Kawai's recent visit to Shanghai, Mr. Shigeru Matsumoto made a gift to the associtiou of Yen 100 to be used for National work Mrs. Matsumoto is a graduate of Miss Gaines's school, Hiroshima Girls' School, and has been a friend of the association for many years. We are glad to find that our friends, though scattered all over the world, still retain their interest in the associatiion.

The last Sunday in February is the Day of Prayer for the World's Christian Student Federation. Folders in Japanese will be sent to our branches for that day, which we trust will be used to the best advantage. It is the hope of the National Committee that this day may be used by students for real evangelistic purposes. The Baiko Jo Gakko of Shimonoseki has set this day aside as "decision day" for their non-Christian teachers and school-mates. They have the day in mind during the whole year and plan very carefully for it. On the day itself they have a big meeting and the results have been most satisfying. May there be many other schools to follow the lead of Baiko.

At the beginning of the school year we received from Kobe College a very neatly gotten up and printed program of meetings. On the first page was given the name of the association and its officers, and on the two inside pages was given the following interesting program:

September

24. Social Meeting.

October.

2.	Spirit-Filled Christians. Acts. 2: 1-4: 41-47.	M. Takenouchi
7.	Lessons from Paul: How we may overcome our hindrances. 2Cor: 7-10: 10.	I. Hirai
16.	How to win souls for Christ. John 1: 40-46	Y. Minaki
21.	How can I increases my faith? Rom. 10: 17: Heb. 11: 1-6.	Miss Searle
30.	Lessons from the Life of Ruth. 1: 16-18; 17-18.	K. Mizoguchi

女子青年界第拾五卷第二號（毎月一回一日發行）
大正七年一月廿八日印刷納本　大正七年二月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

